

第 7 章 貿易と流通

第 1 節 食肉の貿易

牛肉の貿易

羊肉の貿易

豚肉の貿易

加工肉の輸出入

全食肉各国別輸出入推移(統計)

食肉別正味輸入量の予測(統計)

第 2 節 アメリカ

食肉輸入

カン詰生産

ソーセージ生産

第 3 節 イギリス

食肉輸入

イギリス市場

第 4 節 E. E. C 外

加工肉の消費

食肉に対する輸入制限

ソ連の畜産

第 5 節 食肉マーケティング

流通

価格変動

需給構成

シカゴストックヤード

購買態様は変る

第1節 食肉の貿易

まえがき：

土地のある所、牧草が育つか、飼糧が入手できればそこには必ず適作な家畜がある。家畜は有用な食品として人間の生活のある所、世界の殆んど何処でも育つものと云つてよい。牛、豚、羊、家禽の差はあつても、家畜は最も経済的で美味な食品である。所が、家畜は先進国でも後進国でも、そこを適地とする家畜があれば、必ず外国からの輸入を制限する圧力が生れる。国産食糧の供給能力を温存しようとする主張は何時も、有事の際国民の「死活の糧」をつくる農業を保護すると云う名分によつて保護貿易の傾向を強めるものである。このような理由によつて食品は元来国際的に流動し難い性格をもっている。

食肉もその例外ではない。食肉の輸出国と輸入国が国際分業の認識に立つて相提携するには困難な事情が多過ぎる。各国間の食肉の価格差を自動調節する貿易の機能が發揮され難いものである。即ち、あれ程国際間の価格差があり乍ら是正されないのは、食肉の国際間の流動が困難だからである。

後進国では手持ちの少い外貨を食肉輸入のために使用する訳には行かないと云う理由で輸入制限か、輸入禁止する。

先進国では自国産食肉を保護しながらも、それらのコスト高をその儘消費者価格に転嫁することに限界がある。

そんな時食肉輸入の重要性が高まる。

国内産業に占める輸出比重の重い国では、自国産製造品のコスト高の誘因となる程の食品価格の高騰を望まない。こうして食肉輸入が積極的に行われるのが普通である。然しそんな場合でも自国産の製造商品輸出を

求める条件が提出される理由も当然であろう。

消費国の国策によって輸入制限を受けると同じように自由な輸入にもある種の条件が求められるのが食肉の貿易である。

輸出入の推移と予測

欧 州 :

EECはフランスを中心として食肉生産国である。従って1960年頃は各国の輸出入合計は夫々30万トン内外でバランスしていたものである。

所が1966年には輸入が100万トンで輸出の2倍となっている。

EEC以外では英国の輸入150万トンが大きなウエイトを占める。英国以外の諸国30万トンの輸入を合計すると280万トンが全欧州の1966年に於ける総輸入量となる。一方輸出量は180万トンであるから差引100万トンが正味輸入量と云えよう。

FAOの予測では1975年にこの数字は100万トンと141万トンの間にあると云う。

1975年の欧州の総需要量は2200万トン、1961—63年の1630万トンと比較して30%増である。

北 米 :

北米はアメリカとカナダが大部分を占めている。元来両国共生産国である。

所が一人当り消費量が大きく膨大な人口を抱えてその需要量も少くない。

1961—3年の消費量は2000万トン、1975年にはこれが2500万トンを超すだらうと云う。

この巨大な食肉消費量に比べれば輸出入量は非常に少ない。1956—60年

平均で輸出15万トン、輸入44万トン、1966年には夫々20万トンと85万トンと増大しているが、欧州の180万トン、280万トンに比較して可成り小さい。

1975年でも正味輸入量95万トン、輸入推定量120万トン内外である。

又アメリカに対しては口蹄疫による生肉輸入禁止措置がある。

ソ連は1975年に羊肉20万トン、牛肉32万トン、全食肉68万トンの正味輸入量が予測される。

日本は特有の輸入制限による価格高が原因で非常に食肉消費量が少い。輸入量は1956—60年で2万トン1966年に辛うじて13万トン程度に過ぎない。

世界の食肉市場は結局欧州と北米で90%を占めるが今後もこの情勢は続く。

牛肉の貿易

FAOの"1985年農産予測"を要約すると世界の牛肉貿易について次のように述べている。

世界的に牛肉の輸出可能量は1975年で200万トン乃至300万トンであらうと云う。

この量は世界各国の輸入必要量よりはるかに不足する数字である。この不足は主として先進国間の需給状況によってもたらされるものである。

1961—63年当時の需給バランスと比較すると不足量は更に40万トン増加したことになる。

開発途上国では一方その低率な生産増加の傾向がとても人口増加の率に追付かず、牛肉不足の状態を依然として続けていくであらう。

このように指摘したF A Oの予測はこの調査中ブラジル、アルゼンチン、パラガイ、ボリビアについて共通に指摘してきたことと同じである。これらの国内にいつも"慢性的食肉不足"と云う状態が続くと云うことと、その不足に見合うような牧畜業への投下資本が不足しているという現実によって実証されている。

牧畜業が既成資本を形成している所では閉鎖的な国内市場支配を中心とした施策によって輸出が二義的に扱われていることも分ったことである。

F A Oはアルゼンチンやウルガイの輸出増加率がニュージーランドやオーストラリアより低いと予測している。

1961~63年当時輸出国であったブラジル、メキシコも輸入国にならざるを得ないだらうとすら指摘している。

同じ理由で東アフリカの輸出余力もなくなるだらう。

結局開発途上国の食肉不足は1961~63年当時10万トン位の差引き輸入ですんだものが1975年には10.9万トンから16.1万トンの間の量の牛肉を輸入しなければならない需給バランスであると見ている。若しこれらの開発途上国が不足食肉を自由に輸入出来ると仮定すると国際価格は相当高くなる筈である。ところがこれらの国々の外貨事情は自由な食肉輸入を許さないことが明かである。

これらの国々の外貨は他の生産財や緊急物資の輸入に使用されるからである。従ってこれらの国々の国内の食肉不足を基調とした価格上昇が予測される。

従来 of 食肉輸出国にとって、牛肉は外貨獲得の重要資源である。

国の牛肉輸出がその国の全輸出額に占める金額上の割合によっては今後益々政策輸出の度合を強化しなくてはならなくなるだらう。

その割合をパーセンテージによって示すと次表の通りである。

FAO 名	1953~55	1957~61	1963~64
アルゼンチン	11	19	18
オーストラリア	5	6	7
デンマーク	7	8	7
アイルランド	33	34	30
ニュージーランド	3	8	8
ウルガイ	9	14	25

注： 下記の品目を含む

カン詰肉……アルゼンチン、ウルガイ、オーストラリア

牛肉と生牛……デンマーク、アイルランド

牛肉のみ……ニュージーランド

世界の食肉不足の傾向は更に強まる傾向にある。

1975年頃には牛肉は可成り良い値段の輸出品目になるものと予測される。

元来、今次第二次大戦後の世界の牛肉貿易の相場は普通考えられる戦后下落という型通りの価格変の過程を経ていない。

欧州各国の回復と繁栄による牛肉輸入の増大に第一の要因がある。又この期間にアメリカ自身が輸入国となったことも見逃せない。

戦后以来、食肉貿易は最も利益のあがるものであった。一寸した輸出商でもただ「骨付き肉」から骨を取除き仕向け地市場に向いた「カット」に仕立てて輸出するだけの簡単なやり方だけでも大変な利益をあげられたものである。

有利な牛肉の輸出市場は今後も続くことは間違いない。

主要輸出入国では国内生産者保護の政策をとり続けることは間違いないのだが、一人当たり消費量或は少くとも潜在的消費量はどんどん増大して国内産では到底間に合はない需給状況が続く。

牛肉の値段

生きた牛はシカゴ市のストックヤード、アルゼンチン郊外のリニア市場の相場が世界的に有名な集散地として指標的な役割を果たしている。

カナダはウイニベック市場の相場でアメリカ相場に追随する特徴をもつものである。

それぞれについて平均相場の推移を別表によって現わしている。

アルゼンチンの値段がシカゴ相場の三分の一程度でしかなかった時代から次第に高くなって二分の一程度になっている。

アルゼンチンの牛肉は輸出税を払い運賃輸入税を払って始めて相手国の国内牛肉相場と対抗するわけである。相手国の輸入税だけでなく輸出税のハンディを負はなければならない。

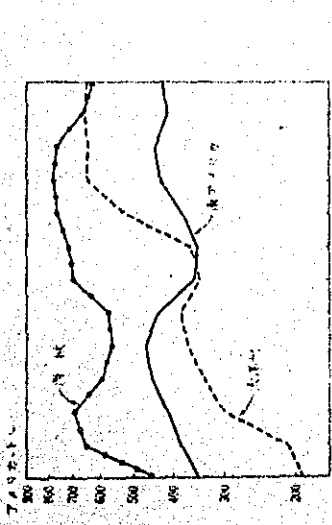
肉牛価格の推移 (アメリカ)

100ポンド当り価格

単位ドル	収場価格		シカゴ		アルゼンチン	カナダ	
	頭当り	合計 万 100ドル	去勢牛 平均	乳牛 コマーシャル	ブエノス アイレス リーア市場	1050ポ ンド以上 チヨイス	1050ポ ンド以下 グッド
1955	88.2	8517	2259	1298	1776	2006	1876
56	88.1	8446	2200	1272	616	1974	1853
57	91.6	8509	2348	1483	661	1951	1857
58	120.0	10,913	2709	1976	1020	2386	2290
59	153.0	14,300	2753	1911	794	2577	2494
60	137.0	13,150	2593	1621	857	2332	2243
61	134.0	13,124	2446	1607	810	2212	2140
62	140.0	14,013	2720	1589	791	2464	2368
63	142.0	14,821	2379	1511	825	2240	2142
64	127.0	13,688	2286	1357	1356	2099	2025
65	113.0	12,360	2581	1458	1359	2249	2156
66	133.0	14,443	2617	1831	1209	2439	2340
67	149.0	16,166	2597	1701	—	—	—
68	149.0	16,183	—	—	—	—	—

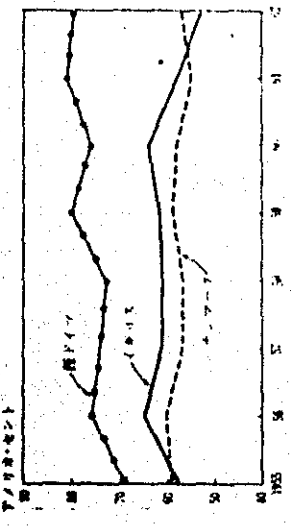
COMMODITY YEAR BOOK 1968

第9図 牛肉、子牛肉、羊肉、子羊肉およびペーコンの世界平均輸出量 (単位: トン当りアメリカ・ドル)



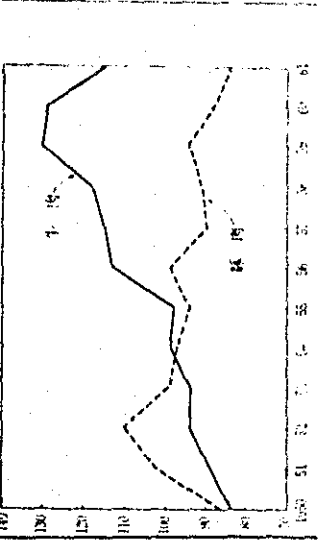
注: アメリカ、アルゼンチン、ウルグアイ、オーストラリア、ニュージーランド、1957年以降、大洋州で輸出量が急増したのは、ある程度若き牛肉の割合が多いためである。1958-62年の急増をそれ以前の期間に正値にあわせるためには約10-15%削減しなければならない。

第11図 主要国における豚肉消費量 (1955-62年) (単位: 1,000トン当りアメリカ・セント)



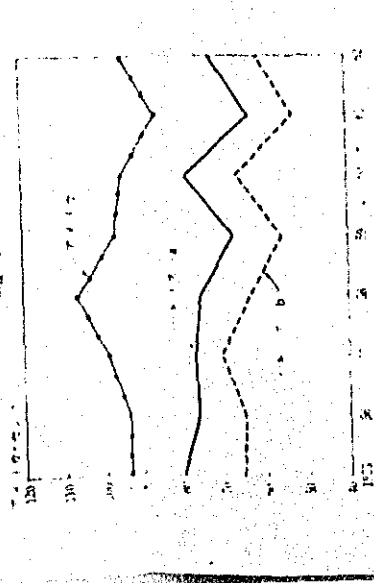
注: デンマーク、豚体重60-70キログラムの1頭の年間飼育費に占める豚肉、西ドイツ7市場におけるC級品の平均相場、フランスに対するドイツ・ペーコンの平均相場は1961年3月に4,200から4,000に変更された。

第13図 西ドイツにおける牛肉、および豚肉の輸入価格指数 (1950-61年) (1952-56年=100)



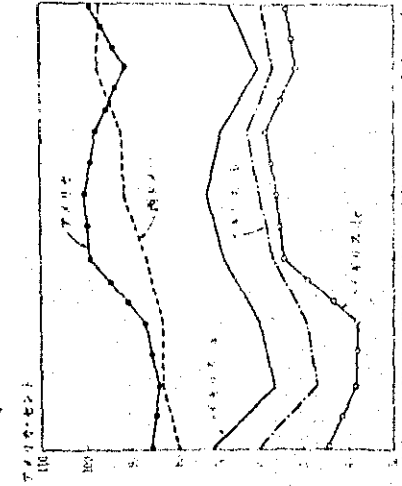
注: 1. 豚肉価格が半を占む。

第12図 イギリスおよびアメリカにおける牛肉基本価格 1955-62年 (単位: 1,000トン当りアメリカ・セント)



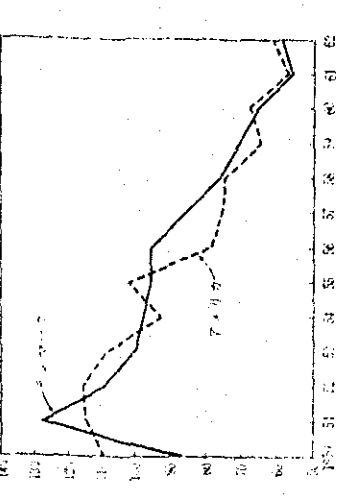
アメリカ、シカゴ市場における豚肉、ペーコン、子羊肉、子羊肉、イギリス、イギリス産子羊、1等、ニュージーランド産子羊、1等、a)、b) に対するスウェーデン市場 (イギリス) における平均相場。

第10図 主要国における牛肉基本価格 (1955-62年) (単位: 1,000トン当りアメリカ・セント)



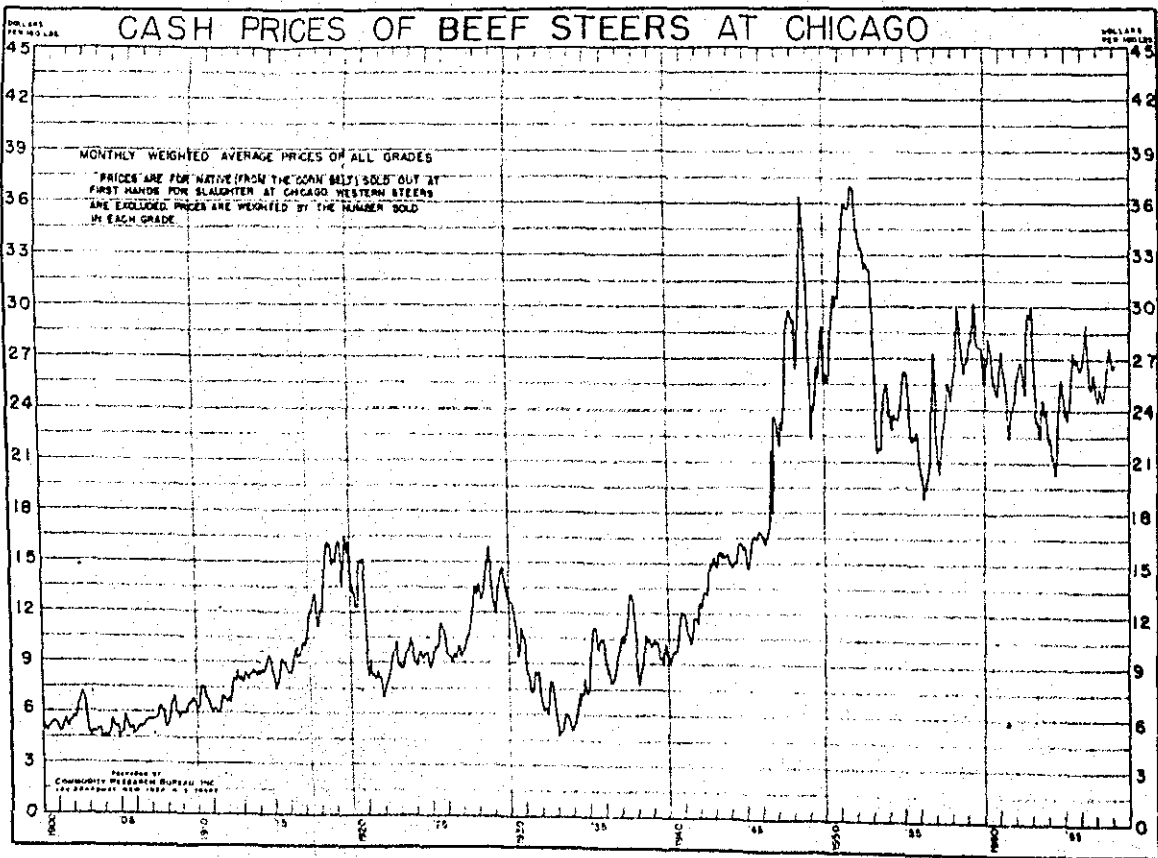
注: アメリカ、シカゴ市場における子羊肉、社内、ペーコン500-600ポンド (227-270キログラム) に対する相対価格。西ドイツ7市場における屠殺場で、すべてのA級、B級の牛肉に対する平均相場。イギリス、a) イギリス産ロンドンカット、b) フランス産ロンドンカット、c) オーストラリア産ロンドンカット、a)、b)、c) に対するスウェーデン市場 (イギリス) における平均相場。

第14図 デンマークおよびアメリカにおけるひな卵の生産者価格 (1950-62年) (1952-56年=100)



注: デンマーク1等ひな卵、アメリカ、ブレイター。

CATTLE AND CALVES



羊肉の貿易

羊肉においては世界の輸入量の65%が英国で占められ輸出量の80%がオーストラリア及びニュージーランドよりのものである。

羊肉は牛肉不足を補う食肉として今後共世界市場に重要な役割を演ずるものと予測される。

1975年における北米の羊肉不足は15万トンに達し、1961—63年当時の2倍に達する。

日本は羊肉輸入を自由化しており価格高の牛肉より可成り経済的であるため今後の消費急増が予想されている。1961—63年の消費3万5000トンが1975年には8万トンから9万トンに達するであらうと予測されている。

90%迄は輸入に依存する日本の市場の拡大のテンポは大きい。

主要市場としてソ連東欧圏は食肉不足の基調のもとに羊肉供給は不足勝ちである。

オーストラリア、ニュージーランドの近年の生産増の情勢でも世界市場における羊肉不足の需給状況に大きな変化はないと言われている。

豚肉の貿易

養豚は養鶏と同様、飼料を原料として労働と資本を集約した製造産業的な性格をもって来た。従って先進国においては近代的な企業としての経営手法が進歩してコストが割安となりつつある。

後進国においては養豚も養鶏も軒先経営で粗放飼育の域を脱せず牛肉、羊肉の価格との比較において割高である。

従ってハム等加工肉を除くと貿易は必ずしも大きな比重を占めない。

先進国は今後の需要増大に応じるだけの供給規模を拡大するのに大きな

困難がない。従って貿易の面から見る限り豚肉は今後の食肉市場の拡大の中でもっともテムボの遅いものと見られている。

単位：1000トン	全 食 肉 1/ -は輸出						
	1961-63		1975 予測				
	総消費	差引輸入 -は輸出	需 要 量	不 足 量			
国 名			低	高	低	高	
北 米	19,738.2	6,475	25,308	25,835	927	939	
ア メ リ カ	18,251.8	6,835	23,294	23,761	961	981	
カ ナ ダ	1,486.4	-36.0	2,014	2,074	-34	-42	
西 欧	16,286.8	1,004.2	21,113	22,463	1,041	1,411	
E E O	8,702.6	397.8	11,360	12,008	530	712	
ベルギールクセンブルグ	506.6	-7.3	631	660	-49	-47	
西 独	3,273.1	433.3	4,159	4,365	517	625	
フ ラ ン ス	3,028.5	-89.1	3,843	4,011	-176	-179	
イ タ リ ー	1,407.6	276.2	2,087	2,305	574	669	
オ ラ ン ダ	486.8	-215.3	640	667	-336	-356	
北 欧 諸 国	5,566.0	618.3	6,581	6,832	299	267	
オーストリア	401.7	3.0	480	492	-10	-22	
デンマーク	293.1	-682.6	351	362	925	-974	
フィンランド	151.3	3.3	201	215	11	7	
アイランド	159.7	-286.9	189	195	-403	-412	
ノールウェイ	129.5	-2.5	172	180	4	7	
スウェーデン	354.7	-20.3	404	412	23	-23	
スイス	303.7	50.4	393	404	64	62	
英 国	3,761.2	1,557.2	4,378	4,558	1,583	1,623	

牛 肉 と 子 牛 肉			
1961-63		1975	
消費	輸入 -は輸出	不 足 量	
		低	高
8,848.5	652.6	821	861
8,179.2	714.6	890	940
669.3	-62.0	-69	-79
6,629.9	473.2	760	947
3,854.5	284.2	538	638
224.0	12.3	17	21
1,189.0	166.5	226	298
1,422.2	-124.3	-164	-184
780.0	245.5	462	508
239.3	-16.0	-3	-5
2,070.6	177.2	115	82
132.0	-15.0	-20	-34
84.7	-170.0	-195	-199
82.5	3.5	7	3
46.7	-217.3	-288	-296
54.0	-1.7	4	6
150.3	7.0	11	12
133.0	22.0	36	35
1,385.8	548.8	559	554

南 欧 諸 国	2,018.2	- 11.9	3,172	3,623	212	432	704.8	11.8	107	227
ギ リ シ ヤ	201.4	50.1	292	319	78	88	60.5	27.8	32	34
ス ペ イ ン	716.4	55.7	1,087	1,194	140	187	216.0	45.0	88	113
ト ル コ	390.5	- 19.5	642	858	63	221	199.3	-10.7	27	105
ユ ー ゴ ス ラ ビ ア	450.7	-133.5	742	815	-147	-150	132.5	-80.5	-97	-95
その他の先進諸国	2,588.3	-954.6	4,019	4,346	-1,177	-1,111	1,163.3	-503.8	-572	-531
日 本	589.0	40.4	1,294	1,530	212	350	160.2	4.9	131	211
オーストラリア	1,118.5	-482.0	1,461	1,493	-825	-865	486.0	-358.0	-580	-600
ニュージーランド	268.8	-517.0	351	351	-684	-742	118.1	-156.7	-211	-249
南 阿	612.0	4.0	913	972	120	146	399.0	6.0	88	107
ソ 連 と 東 欧	11,852.6	- 65.1	16,839	17,682	590	744	4,132.7	114.2	422	535
ソ 連	7,460.7	- 0.3	10,957	11,557	566	681	2,802.0	-3.0	246	320
東 欧	4,391.9	- 64.8	5,882	6,125	24	63	1,330.7	117.2	176	215
ポ ー ラ ン ド	1,378.4	-196.0	1,905	1,960	-189	-201	367.6	-26.0	-10	-12
アジア計画経済国	10,323.4	- 76.6	16,932	19,471	2,026	3,888	1,897.2	-2.8	811	1,381
2/										
ラテンアメリカ	7,256.1	-725.3	10,745	11,474	152	322	5,201.4	-715.3	-55	90
メキシコ, 中米, カリブ	1,598.9	19.5	2,659	2,903	333	417	1,051.5	-18.3	235	309
メ キ シ コ	722.5	- 73.2	1,269	1,385	70	121	455.7	-75.0	31	71
O A I S	186.8	- 1.3	327	356	48	55	138.4	-1.8	39	47
カ リ ブ 諸 島	396.4	57.7	587	634	136	147	269.6	26.1	90	102

その他	293.2	36.3	476	528	79	94	187.8	32.4	75	89
西部南米	1,094.6	32.6	1,740	1,948	269	383	704.4	30.4	181	267
東部南米	4,562.6	-777.4	6,346	6,623	-450	-478	3,445.5	-727.4	-471	-486
アルゼンチン	2,158.9	-655.6	2,655	2,659	-735	-823	1,818.4	-606.2	-705	-783
ブラジル	2,027.2	-25.8	3,233	3,496	398	465	1,341.2	-27.1	350	420
パラガイ	75.2	-22.3	107	116	-21	-19	62.7	-22.3	-21	-19
ウルガイ	301.3	-73.7	351	352	-92	-101	223.2	-71.8	-95	-104
アフリカ	2,122.3	-44.4	3,224	3,720	336	553	1,237.5	-55.9	177	329
北部西アフリカ	3,241	25.1	555	646	128	183	131.1	12.1	53	75
西アフリカ	532.9	27.8	807	922	111	178	285.4	18.2	74	124
中央アフリカ	240.6	-9.1	385	434	71	97	147.6	-12.0	42	68
東アフリカ	1,024.7	-88.2	1,477	1,718	26	95	673.4	-74.2	8	62
エチオピア	448.6	-7.4	611	707	22	49	281.0	-6.0	12	29
ケニヤ	129.9	-12.5	186	225	-2	20	78.6	-11.0	-6	5
マダガスカル	80.0	-7.0	121	138	4	9	52.8	-6.2	3	8
タンザニア	77.8	-11.2	112	136	-6	-1	50.7	-9.3	-6	-1
近東	1,094.5	71.6	1,813	2,102	501	680	431.1	28.8	202	295
極東	2,661.2	94.7	4,222	4,997	608	1,066	861.7	25.7	304	477
南アジア	940.9	0.3	1,488	1,727	256	414	426.0	-	141	226
東及び東南アジア	1,720.3	94.4	2,734	3,270	352	652	435.7	25.7	163	251

1/ 骨付き肉 2/ 本土中国のみ

国名	羊肉と子羊肉				豚肉				家禽肉			
	1961-63		1975		1961-63		1975		1961-63		1975	
	消費	輸入 -は輸出	不足量 低	高	消費	輸入 -は輸出	不足量 低	高	消費	輸入 -は輸出	不足量 低	高
北米	455.1	75.8	151	146	5,867.3	25.7	75	75	4,567.3	-106.6	-120	-143
アメリカ	421.7	57.4	121	114	5,421.9	22.6	70	70	4,229.0	-111.1	-120	-143
カナダ	33.4	18.4	30	32	445.4	3.1	5	5	338.3	4.5	-	-
西欧	1,347.5	357.2	542	644	6,469.3	90.0	-205	-198	1,840.1	83.8	-56	18
EEC	199.7	12.3	67	77	3,564.7	-	-91	-80	1,083.7	101.3	16	77
ベルギールクセンブルグ	4.1	2.3	3	3	201.3	-15.0	-34	-34	77.2	-7.1	-35	-37
西独	15.5	1.0	8	9	1,774.1	86.8	97	106	294.5	179.0	186	212
フランス	132.0	7.7	34	38	1,033.0	41.5	-10	-12	441.3	-14.0	-36	-21
イタリア	41.8	3.0	22	27	343.8	21.0	68	77	242.0	6.7	22	57
オランダ	6.3	-1.7	-	-	212.5	-134.3	-212	-217	28.7	-63.3	-121	-134
北欧諸国	697.9	345.6	353	361	2,329.5	113.5	-99	-100	468.0	-18.0	-70	-76
オーストリア	X	X	X	X	244.7	10.0	6	8	23.3	8.0	4	4
デンマーク	X	X	X	X	180.7	-461.3	-637	-675	26.7	-51.3	-93	-100
フィンランド	X	X	X	X	64.8	-0.2	3	3	2.0	-	-	-
アイルランド	31.3	-22.0	-34	-33	66.0	-45.3	-77	-79	15.7	-2.3	-4	-4
ノールウェイ	14.6	0.3	3	4	56.0	-0.7	-3	-3	4.9	-0.4	-	-
スウェーデン	X	X	X	X	191.4	-28.6	-35	-36	11.0	0.3	-	-
スイス	4.0	0.7	2	2	142.0	8.7	8	7	24.7	19.0	18	18
英国	631.8	368.8	383	388	1,383.9	630.9	636	675	359.7	8.7	5	6

南 欧 諸 国	449.9	-0.7	122	206	575.1	-23.5	-15	-18	288.4	0.5	-2	17
ギ リ シ ャ	89.6	17.0	40	45	28.0	2.0	3	3	23.3	3.3	3	6
ス ペ イ ン	116.8	-1.2	30	42	276.6	11.6	17	22	107.0	0.3	-	10
ト ル コ	171.2	-8.8	36	109	×	×	×	×	20.0	-	-	7
ユ ー ゴ ス ラ ビ ア	44.9	-8.4	4	7	209.8	-41.5	-49	-54	63.5	-3.1	-5	-8
その他の先進諸国	745.4	-449.7	-616	-641	484.2	-1.6	12	47	195.4	0.5	-1	14
日 本	34.9	31.6	71	82	272.6	2.6	10	42	121.3	1.3	-	15
オーストラリア	469.0	-125.0	-237	-257	116.0	1.0	-8	-8	47.5	-	-	-
ニュージーランド	107.5	-356.3	-470	-490	37.6	-3.2	-2	-2	5.6	-0.8	-1	-1
南 阿	134.0	-	20	24	58.0	-2.0	12	15	21.0	-	-	-
ソ 連 と 東 欧	1,107.8	2.42	270	301	5,413.0	-164.6	-70	-60	1,199.1	-39.9	-32	-32
ソ 連	879.3	2.60	187	208	2,974.4	-28.3	120	135	805.0	5.0	13	18
東 欧	228.5	-1.8	83	93	2,438.6	-136.3	-190	-195	394.1	-43.9	-45	-50
ポ ー ラ ン ド	27.8	-0.5	10	9	925.2	-154.4	-170	-175	57.8	-15.1	-19	-23
アジア計画経済国	529.5	-0.5	167	265	7,429.7	-70.3	1,056	2,248	467.0	-3.0	-8	-6
ラテンアメリカ	419.2	-38.1	54	81	1,304.3	19.2	135	122	331.2	8.9	19	29
メキシコ, 中米, カリブ	60.8	2.1	14	16	367.4	27.3	70	72	119.2	8.4	14	10
メ キ シ コ	43.0	0.3	9	10	180.7	0.7	28	33	43.1	0.8	2	7
O A I S	×	×	×	×	30.9	0.4	8	7	13.8	0.1	-	-
カ リ ブ 諸 島	14.1	1.8	4	5	85.8	22.3	30	27	26.9	7.5	12	13

その他	×	×	×	×	70.0	3.9	4	5	35.4	-	-	-
西部南米	136.5	0.5	46	72	192.1	1.1	37	38	61.6	0.6	4	6
東部南米	221.9	-40.7	-7	-7	744.8	-9.2	28	12	150.4	-0.1	-	3
アルゼンチン	121.5	-40.1	-24	-25	159.1	-9.2	-4	-14	59.9	-0.1	-2	-1
ブラジル	45.3	1.3	14	15	560.7	-	32	26	80.0	-	2	4
パラガイ	2.0	-	-	-	5.0	-	-	-	5.5	-	-	-
ウルガイ	53.1	-1.9	3	3	20.0	-	-	-	5.0	-	-	-
アフリカ	543.8	-10.5	80	115	154.2	15.1	46	50	186.8	7.0	33	59
北部西アフリカ	113.9	2.9	43	52	16.1	5.1	5	5	63.0	5.0	27	51
西アフリカ	153.3	-0.1	12	25	61.5	8.8	21	23	32.7	0.9	4	6
中央アフリカ	35.5	0.1	13	10	44.5	1.6	13	15	13.0	1.2	3	4
東アフリカ	241.1	-13.5	12	28	32.1	-0.4	7	7	×	×	×	×
エチオピア	122.8	-1.2	11	22	×	×	×	×	×	×	×	×
ケニヤ	47.8	-1.0	4	15	×	×	×	×	×	×	×	×
マダガスカル	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
タンザニア	21.1	-1.9	-	-	×	×	×	×	×	×	×	×
近東	580.2	38.7	283	352	3.8	1.8	2	2	79.4	2.3	14	31
極東	516.8	6.1	149	248	1,068.3	56.3	136	300	214.4	6.6	19	41
南アジア	424.8	0.1	114	186	26.1	0.1	1	2	64.0	0.1	-	-
東及び東南アジア	92.0	6.0	35	62	1,042.2	56.2	135	298	150.4	6.5	19	41

2/ 本土中国のみ

加工肉の輸出入

生肉として食肉に供されるものをあらかじめ加工することによって、貯蔵と運搬に有利性をあたえることが、加工肉の本来の目的である。従って生肉を処理して加工肉をつくり上げる迄の附加価値は肉そのものの食用価値を意味するものではなく、流通手段としての価値である。

勿論、加工肉でなければならぬ独特の食用価値が皆無というわけではないが、それは二義的である。

牛肉加工品は大部分カン詰コンビーフである。バラガイの食肉輸出の大部分がコンビーフであるように、産地の運送コストが高く、貯蔵運搬設備の不十分さが、加工肉としての国際的流通を作り上げている。

豚の加工肉としては、ベーコンとハムが代表的なものである。豚の加工肉に関する限りラテンアメリカは輸入圏である、元来豚の飼育そのものは、何度も指摘して来たように、飼料を原料とする製造産業的なものであるため、程度の高い飼育技術と施設それに加工設備に資本を集中出来る先進諸国が豚の加工肉の主要生産国であり、輸出国でもある。オランダ等の西欧諸国の例に見るように輸入飼料を原料として豚を飼育しその加工肉としてのハムやベーコンを有力な輸出商品にまで発達させた過程に大いに学ぶべきものがある。食肉を外国品からの防衛だけで考える農業政策からさらに一步を進めて加工産業として輸出商品に進化させる積極性が重要なことである。

加工肉 輸出入 ラテンアメリカ

上は輸出

単位：1000トン

下は輸入	1948-52	1957	1958	1959	1960	1961	1962
全食肉	517	715	778	684	567	575	710
	50	89	91	91	87	73	92
うち加工肉	147	156	200	154	95	117	107
	26	61	64	56	55	32	47
ベーコン、ハム及び 塩蔵豚肉	3	-	-	-	-	-	-
	13	27	25	29	25	11	10
その他調整肉	25	16	68	40	4	6	7
	3	5	6	5	6	9	6
カン詰しなハソーセージ	3	-	-	-	-	-	-
	3	3	4	3	2	1	1
カン詰肉	116	140	132	114	91	111	100
	7	26	29	19	22	11	30

加工肉輸出入 北米

上は輸出

単位：1000トン

	1948-52	1957	1958	1959	1960	1961	1962
下は輸入							
全 食 肉	163	203	175	215	258	277	286
	151	215	424	484	397	500	676
うち加工肉	81	61	50	57	61	45	45
	99	121	195	165	121	138	150
ベーコン、ハム 及び塩蔵豚肉	58	31	26	30	25	19	16
	3	7	11	11	11	15	19
その他調整肉	5	7	8	8	9	10	11
	16	11	66	46	10	13	14
カン詰しない ソーセージ	1	14	4	4	4	2	2
	-	1	1	1	1	1	1
カン 詰 肉	17	19	12	15	25	14	16
	80	102	117	107	99	109	116

上は輸出

単位：1000トン

下は輸入	1948-52	1957	1958	1959	1960	1961	1962
全食肉	404 1395	840 2,022	891 2,001	977 2,047	1204 2,241	1,270 2,178	1,426 2,569
うち加工肉	262 419	492 590	514 596	536 612	616 657	608 664	605 670
ベーコン、ハム 及び塩蔵豚肉	145 208	297 340	297 345	311 356	375 415	357 404	366 418
その他の調整肉	6 20	10 8	8 7	8 9	10 6	8 8	7 7
カン詰シハソーセージ	6 5	16 8	18 8	19 8	21 9	20 10	20 11
カン詰肉	102 186	169 234	191 236	198 239	210 227	223 242	212 234

FAO 世界食肉経済

加工肉 輸出入： 大洋洲

上は輸出

単位： 1000トン

	1948-52	1957	1958	1959	1960	1961	1962
下は輸入							
全 食 肉	603 7	695 9	744 13	826 9	758 11	761 9	866 10
うち加工肉	74 5	67 7	69 7	58 7	38. 7	41 8	32 6
ベーコン、ハム 及び塩蔵豚肉	4	1	1	1	-	1	1
その他の調整肉	2	1	2	1	1	-	1
カン詰 しゃいソーセージ	3	-	1	-	-	1	-
カン詰 肉	65 5	65 7	65 7	56 7	37 7	39 8	30 6

第 2 節 アメリカ

アメリカの食肉輸入

アメリカには農産物支持価格制度 (O. C. O.) があって農産品最低価格を保証する制度がある。

穀類は特にその制度がきびしく適用されて極端な低価格を防いでいる。そのような穀類を飼料に使って飼育されるアメリカの家畜から生産される食肉には最低価格支持制度が適用されたことがない。

アメリカの牧畜業者——キャトルマン——遠に言わせると彼等はアメリカの建国独立精神を今もうけ継ぐフロンティアの一群であると誇っている。

アメリカのキャトルマンには連邦政府の干渉を最少限度にとどめたいと望む型の人々が多いと言う。

こんなキャトルマンの伝統を誇るのであれば自由企業主義、ひいては国際的にも開放された自由貿易主義に通じる伝統があつて然るべきであらう。

MEAT IMPORT LAW (PL 88—482) によって輸入量を一定割合以下におさえる輸入割当法が 1964 年に制定されたが実際にこの割当が適用されたことはない。

USDA が最近の輸入情勢を生産者に伝えた一文がある。生産者の立場で食肉輸入がどのように捕えられているかを伺うことができる。

アメリカ国内の食肉の値段は、特別の場合を除いて世界の各国より高いのが普通である。

国内産食肉の輸出は割合少く、殆んど国内消費に向けられる。その上更に他の国々からの輸入分も消費するのである。

しかし一方では、アメリカではターロー、グリース、ラード、皮革加工食肉のような牧畜製品については、世界一の輸出国である。これらの製品のどれをとってみてもその輸出額はアメリカの食肉そのものの輸出金額より多い。

1967年アメリカは4800万ドル食肉（牛肉、子牛肉、豚、ラム）を輸出した。

同時にターロー、グリース、ラードを1億7600万ドル、皮革1億2700万ドル加工肉5700万ドルを輸出した。

1967年の輸出は、食肉と食肉加工品を合はせて8億3400万ドルで1966年の9億600万ドルより減少した。骨付き重量で18億4100万ポンド（84万トン）である。

これは1966年より7%多く記録を作った1963年より10%少い。

(USDA: AGRICULTURAL SITUATION)

アメリカのカン詰肉生産

アメリカのカン詰肉生産も過去30年間に増大の一途を辿って来た。

1966年には22億5400万ポンド（約100万トン）に到達している。

別表の通り輸入カン詰肉、特にカン詰ハムの輸入はここ数年増大し続けて1966年には最高3億2300万ポンド（約15万トン）に達した。

アメリカ人一人当たり年間消費は1966年で12.4ポンド（約5.6キロ）と推定される。

これは30年前の約4倍の消費量である。

缶詰生産統計

単位：100万ポンド

年	生産 ^{1/} 連邦検査	輸入 牛肉	缶詰 豚肉	輸出	ストック 000 軍用等	見掛上 合計	一人当り ポンド
1937	308	88	43	22	略	417	3.2
38	304	79	41	23	す	401	3.1
39	407	86	37	24		506	3.9
40	530	61	1	20		572	4.3
41	884	104	1	27		698	5.3
42	1,927	92	*	19		204	1.6
43	2,051	106	2	10		444	3.4
44	1,931	88	*	13		436	3.4
45	1,926	55	*	14		636	4.9
46	1,343	3	*	55		1,110	8.0
47	1,099	29	*	64		1,029	7.2
48	1,096	129	*	35		1,136	7.8
49	1,040	72	2	26		1,066	7.2
50	1,231	125	19	20		1,305	8.7

1951	1,441	154	31	21	1,351	89
52	1,351	120	54	19	1,446	94
53	1,437	100	97	29	1,558	100
54	1,441	85	113	32	1,553	98
55	1,508	87	107	22	1,659	102
56	1,716	73	97	28	1,826	110
57	1,659	95	108	43	1,790	106
58	1,651	113	123	24	1,842	107
59	1,687	95	120	26	1,868	107
60	1,754	77	127	23	1,920	108
61	1,896	95	125	21	2,075	115
62	1,980	84	158	17	2,175	118
63	2,058	112	151	18	2,200	118
64	2,217	79	146	20	2,327	123
65	2,104	91	178	44	2,195	114
66	2,254	90	235	44	2,395	124

USDA 1/4 牛, 豚, ソーセージ等, 但しスロウを含む。*50万ポンド以下

アメリカのソーセージ生産

別表に示す通りソーセージの生産も年々増加し続けて来た。

1966年には連邦政府による検査済工場に於ける生産は25億1430万ポンド(約115万トン)に達している。この内には8億7470万ポンド(約40万トン)のウインナソーセージとフランクフルトが含まれている。

連邦政府の検査済製品は全体の56%を占めると推定されているから、アメリカ人の一人当り消費量は大体年間20ポンド(約9キロ)と云うことになる。

1956	2400	6550	6200	1431	2066	1864.7
57	2311	6569	6234	1400	2076	1859.0
58	2292	6551	6321	1317	2075	1855.6
59	2691	6666	6402	1284	2024	1906.7
60	2588	6966	6833	1315	2065	1976.7
61	2493	7038	6937	1320	2086	1987.4
62	2684	7229	7092	1327	2146	2047.8
63	2830	7429	7317	1487	2257	2132.0
64	3059	7953	8005	1537	2403	2295.7
65	2907	8150	8548	1679	2417	2370.1
66	3196	8747	9022	1656	2522	2514.3

USDA MEAT INSPECTION DIVISION ARS

ソーセージ生産 (連邦政府検査ズミ)

単位：100万ポンド

年	生製品	燻製 ソーセージ その他	乾燥	その他	合計
1945	4792.2	1,101.1	135.9	249.8	1,966.0
46	315.6	973.7	109.4	208.4	1,607.2
47	247.0	1019.1	136.5	191.1	1,593.7
48	231.6	932.5	108.8	184.1	1,457.0
49	238.1	964.6	115.5	174.9	1,493.1
50	216.5	461.3	122.8	184.3	1,485.5
51	214.6	495.2	114.2	193.5	1,570.1
52	220.2	524.4	119.4	195.6	1,652.2
53	204.1	542.5	124.3	194.6	1,674.7
54	208.4	567.0	129.3	196.7	1,718.0
55	231.8	609.2	136.0	206.5	1,802.2

第 3 節 イギリス

イギリスの食肉輸入

イギリスは国内天然資源に乏しく製造商品の附加価値を高めて輸出することによって国の経済の対外バランスをとらうとする国である。条件は日本と同様でその輸出依存度は高い。

附加価値を高くして製品を輸出する為にはそのコストを低廉にして国際競争力に勝たなければならない。

消費者物価が直接生産コストにはねかえると云うことから食料の低価格政策を支持する国である。

長い植民地支配による高い生活程度を享受した国民であるだけに食肉消費量は大きい。

その食肉価格を低く維持しようとする努力は結局輸出立国の為の消費者コストの低廉を狙ったものと言えよう。イギリスは食肉輸入を無税としている。

輸入食肉が低廉であるということは、イギリス国民にとって有利であるという評価は古い昔から習慣的に支持されている。

輸入食肉を安く国民に提供する内政上の好評は一方では国内牧畜業者を壊滅状態に押しやることにもなる。そのために国内業者を満足させるための補助金制度がある。

1960年には牧畜業者収入の20%に当るものが補助金として与えられたと言われるがこの補助金は結局、国民の税金によって賄われるものである。

税金は消費者も負担しなければならない。

しかしイギリス人は輸入国として最も低廉なる牛肉を購入出来ることは間違いない。

ただ、将来イギリスがE E Cに加盟したとき、域内流通で最も、やかましい論議を呼んでいるE E Cの農産物、なかんずく食肉に対する域外差別措置に従わなければならないであらう。

E E Cを主として西欧諸国は農業について積極的な自立経済圏を主張する傾向が強い。

例えばフランス等食肉生産国、或いは輸出国としての立場をE E C域内で主張することも予定しなければならない。

又イギリス国内牧畜業者の突上げによるアフターザ汚染牛肉に対する制限の動きがある。

これは南米産牛肉としてオーストラリア、ニュージーランド産との競争に大きなハンディとなるおそれがある。

英国の食肉輸入推移 その1

単位：1,000トン

牛 肉		半身60キロ以上の牛			同60キロ以下の牛	合 計
国 名	年	生 肉	冷 蔵	冷 凍		
総 計	1964	17.6	171.1	155.5	6.4	350.6
	65	26.2	112.2	150.9	4.8	294.1
	66	35.7	125.2	126.0	2.9	289.8
	67	96.7	105.4	69.5	1.8	273.4
アルゼンチン	1964	-	130.6	21.0	-	151.6
	65	-	96.2	13.2	-	109.4
	66	-	110.1	9.8	-	119.9
	67	-	89.4	13.6	-	103.0
ニュー ジランド	1964	-	0.7	25.1	0.8	26.6
	65	-	0.6	28.8	0.4	29.8
	66	-	0.1	19.1	0.3	19.5
	67	-	-	8.7	0.2	8.9
オーストラリア	1964	-	0.3	72.3	2.8	75.4
	65	-	0.1	90.2	1.8	92.1
	66	-	-	67.6	1.2	68.8
	67	-	-	18.6	0.4	19.0
ウ ル ガ イ	1964	-	21.0	11.3	-	32.3
	65	-	2.8	1.5	-	4.3
	66	-	7.0	3.3	-	10.3
	67	-	4.1	4.6	-	8.7

英 国 (牛肉)

単位：1000トン

アイルランド	1964	16.7	0.2	3.0	-	19.9
	65	26.2	0.2	2.2	-	28.6
	66	35.7	1.6	3.8	-	41.1
	67	96.1	9.4	3.9	-	109.4
デンマーク	1964	-	-	-	-	-
	65	-	-	-	-	-
	66	-	-	-	-	-
	67	-	-	-	0.9	0.9
オランダ	1964	-	-	-	2.2	2.2
	65	-	-	0.6	2.3	2.9
	66	-	-	0.3	0.6	0.9
	67	-	-	-	0.2	0.2
ポーランド	1964	-	-	-	-	-
	65	-	1.4	-	-	1.4
	66	-	-	-	-	-
	67	-	-	-	-	-
ユーゴスラビア	1964	-	13.2	0.4	-	13.6
	65	-	5.6	0.2	-	5.8
	66	-	3.5	0.3	-	3.8
	67	-	0.2	0.3	-	0.5
その他の国	1964	0.9	5.1	22.4	0.6	29.0
	65	-	5.3	14.2	0.3	19.8
	66	-	2.9	21.8	0.8	25.5
	67	0.6	2.3	19.8	0.1	22.8

英国その2 (羊肉)

単位：1000トン

国 別	年	生 肉	冷 蔵 冷 凍		合 計
			ラ ム	羊, 去勢羊	
総 計	1964	9.0	300.0	36.5	345.5
	65	8.6	303.3	38.9	350.8
	66	8.8	294.3	17.6	320.7
	67	8.7	310.6	26.6	345.9
アルゼンチン	1964	-	12.1	-	12.1
	65	-	14.4	0.6	15.0
	66	-	20.3	-	20.3
	67	-	18.4	-	18.4
ニュー ジランド	1964	-	271.2	27.6	298.8
	65	-	271.1	28.4	299.5
	66	-	262.9	12.6	275.5
	67	-	282.7	20.7	303.4
オーストラリア	1964	-	14.6	8.2	22.8
	65	-	14.3	9.1	23.4
	66	-	6.8	3.8	10.6
	67	-	4.6	4.9	9.5
ウルガイ	1964	-	-	-	-
	65	-	-	0.6	0.6
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-

英 国 (羊 肉)

単位：1000トン

アイルランド	1964	9.0	0.1	-	9.1
	65	8.6	0.7	-	9.3
	66	8.8	2.7	-	11.5
	67	8.7	1.2	-	9.9
デンマーク	1964	-	-	-	-
	65	-	-	-	-
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-
オランダ	1964	-	-	-	-
	65	-	-	-	-
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-
ポーランド	1964	-	-	-	-
	65	-	-	-	-
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-
ユーゴスラビア	1964	-	-	-	-
	65	-	-	-	-
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-
その他の国	1964	-	2.0	0.7	2.7
	65	-	2.8	0.2	3.0
	66	-	1.6	1.2	2.8
	67	-	3.7	1.0	4.7

英 国 その 3 (豚 肉)

単位：1000ドル

国 別	年	生 肉	冷 蔵 冷 凍	ベ ー コ ン	合 計
総 計	1964	5.4	4.5	397.0	406.9
	65	14.7	6.2	403.6	424.5
	66	4.6	5.9	403.4	413.9
	67	2.6	9.0	408.4	419.4
アルゼンチン	1964	-	0.2	-	0.2
	65	-	-	-	-
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-
ニュー ジランド	1964	-	0.4	-	0.4
	65	-	0.8	-	0.8
	66	-	0.1	-	0.1
	67	-	-	-	-
オーストラリア	1964	-	-	-	-
	65	-	-	-	-
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-
ウルガイ	1964	-	-	-	-
	65	-	-	-	-
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-

英 国 (豚肉)

単位：1000トン

アイルランド	1964	5.3	0.4	28.2	33.9
	65	14.6	2.1	26.8	43.5
	66	4.6	1.2	28.2	34.0
	67	2.0	0.3	23.8	26.1
デンマーク	1964	-	0.2	294.8	295.0
	65	-	0.2	304.4	304.6
	66	-	0.1	302.5	302.6
	67	-	0.2	304.9	305.1
オランダ	1964	0.1	0.1	9.2	9.4
	65	0.1	-	6.3	6.4
	66	-	-	4.5	4.5
	67	-	-	8.2	8.2
ポーランド	1964	-	-	51.2	51.2
	65	-	-	51.7	51.7
	66	-	-	52.7	52.7
	67	-	-	54.9	54.9
ユーゴスラビア	1964	-	2.4	1.8	4.2
	65	-	1.6	0.7	2.3
	66	-	1.0	-	1.0
	67	-	0.3	-	0.3
その他の国	1964	-	0.8	11.8	12.6
	65	-	1.5	13.7	15.2
	66	-	3.5	15.5	19.0
	67	-	8.2	16.6	24.8

英国の食肉輸入推移 その4 (雑冷凍肉)

単位: 1000トン

国名	年	牛	羊	豚	合計
総計	1964	54.8	27.0	20.0	101.8
	65	55.8	28.3	24.0	108.1
	66	53.7	30.7	19.9	104.3
	67	51.0	33.2	20.9	105.1
アルゼンチン	1964	12.6	1.2	-	13.8
	65	9.8	1.7	-	11.5
	66	9.9	2.2	-	12.1
	67	10.3	2.3	-	12.6
ニュー ジランド	1964	4.7	15.0	0.4	20.1
	65	4.0	15.5	0.5	20.0
	66	4.2	15.9	0.4	20.5
	67	4.7	19.5	0.3	24.5
オーストラリア	1964	12.4	4.4	0.2	17.0
	65	12.5	4.4	0.2	17.1
	66	11.9	6.1	0.2	18.2
	67	8.5	5.3	0.2	14.0
ウルガイ	1964	0.4	-	-	0.4
	65	0.3	-	-	0.3
	66	0.2	-	-	0.2
	67	0.7	-	-	0.7

英国の食肉輸入推移

アイルランド	1964	1.8	0.9	2.8	5.5
	65	2.0	0.6	3.2	5.8
	66	2.4	0.7	3.0	6.1
	67	4.7	0.7	2.6	8.0
デンマーク	1964	1.3	-	11.8	13.1
	65	1.3	-	14.9	16.2
	66	0.9	-	12.4	13.3
	67	1.9	-	13.4	15.3
オランダ	1964	0.2	0.1	0.4	0.7
	65	0.8	0.2	0.4	1.4
	66	0.5	-	0.1	0.6
	67	0.3	0.1	-	0.4
ポーランド	1964	-	-	-	-
	65	-	-	-	-
	66	-	-	-	-
	67	-	-	-	-
ユーゴスラビア	1964	0.4	-	0.4	0.8
	65	0.1	-	0.3	0.4
	66	0.2	-	0.1	0.3
	67	0.1	-	-	0.1
その他の国	1964	21.0	5.4	4.0	30.4
	65	25.0	5.9	4.5	35.4
	66	23.5	5.8	3.7	33.0
	67	19.8	5.3	4.4	29.5

英国の食肉輸入推移 その5 (加工肉)

単位：1000トン

国名	年	牛	羊	豚	合計
総計	1964	68.4	3.6	96.4	168.4
	65	52.8	3.4	95.6	131.8
	66	58.9	2.6	95.5	157.0
	67	77.1	3.2	99.8	180.1
アルゼンチン	1964	18.0	0.4	0.1	18.5
	65	8.7	0.5	-	9.2
	66	13.9	0.4	-	14.3
	67	32.4	0.6	-	33.0
ニュー ジラント	1964	1.1	0.9	-	2.0
	65	0.8	0.4	-	1.2
	66	1.7	0.4	-	2.1
	67	1.9	0.3	-	2.2
オーストラリア	1964	10.4	2.3	-	12.7
	65	10.0	2.4	-	12.4
	66	7.8	1.8	-	9.6
	67	9.2	2.3	-	11.5
ウルガイ	1964	1.8	-	-	1.8
	65	1.3	-	-	1.3
	66	0.4	-	-	0.4
	67	0.3	-	-	0.3

英 国

単位：1000ント

アイルランド	1964	4.9	-	0.9	5.8
	65	4.1	-	1.1	5.2
	66	4.6	-	1.4	6.0
	67	4.5	-	1.3	5.8
デンマーク	1964	-	-	32.8	32.8
	65	-	-	34.4	34.4
	66	-	-	36.8	38.8
	67	-	-	37.6	37.6
オランダ	1964	2.0	-	34.0	36.0
	65	1.8	-	32.1	33.9
	66	1.8	-	33.9	35.7
	67	1.8	-	34.4	36.2
ポーランド	1964	3.2	-	9.0	12.2
	65	3.2	-	7.4	10.6
	66	2.6	-	7.1	9.7
	67	2.3	-	7.0	9.3
ユーゴスラビア	1964	0.1	-	14.7	14.8
	65	0.1	-	12.8	12.9
	66	-	-	9.5	9.5
	67	-	-	12.0	12.0
その他の国	1964	26.9	-	4.9	31.8
	65	22.8	0.1	7.8	30.7
	66	27.7	-	6.8	34.5
	67	24.7	-	7.5	32.2

イギリス市場

アルゼンチンとイギリスの両政府間で開かれている食肉貿易の交渉の最終結果、保償安定価格 (PRECIOS ESTABLES Y COMPENSATORIOS) の方式によって英国向に安定した食肉輸出が継続されることを望むものである。

この問題を客観的に概観してみよう。

1967年中にイギリス向に輸出された牛肉、豚肉製品は106,918トン(内訳……冷蔵肉84,758トン、冷凍肉11,741トン、豚肉製品10,424トン)である。

これはアルゼンチンからの輸出としては過去の実績から見れば最低の数字である。それでもアルゼンチンにとっては他の如何なる国に対する輸出よりも大きい数字であることは間違いない。この国の市場の重要性はますます増大している。それにもかかわらずイギリス市場の消化能力は漸次衰退し続けるであらうということ是一般の常識となっている。その原因の一部には、イギリス国内の社会的経済的な圧迫を反映しているものである。その圧力はイギリス国内の自給率を高めようとする傾向に起因する。

更に又EEOに対して加入を働きかける政策にも原因がある。此のような原因を推定することは正しいことに違いないのだが、いつからそうなるかと云うことを予知することは困難である。現在迄EEOとの交渉は成功していないし、又生産者の言によれば、自給達成の為に補助金の増額も、そのコスト高を充分カバーするものからは程遠いとも言っている。

従ってこの二つの原因を正確に評価し予測することは吾々にとって不可能に近いことである。

いずれにせよイギリス市場はアルゼンチンにとって関心の高い市場であ

り続けることは間違いない。

ただイギリス向け食肉輸出が他の国へ輸出する場合よりもっと価格変動の巾が広くその為に他の市場へ輸出する代金の年間平均よりいつも低い価格でしか取引されないと云う論議があることを注意しなければならぬ。

このことは過去について調べるまでもなく、現状でその原因を次のように説明することが出来る。それはイギリス市場がいつも他の輸出市場との通商交渉、金融政策、取引条件等で不成立になったとき、決してそこに予定した輸出用食肉が結局なだれこんでしまうような立場になっているからである。イギリス市場はアルゼンチン輸出の緊急待避的市場の性格を持っている。これはイギリス自身にとっては低購入価格と云う内政上の評価を高める原因にもなっていることである。すなわち輸入食肉が低廉であるという事はイギリス国民にとって有利であると云う評価が慣習的に支持されている。これはイギリスの消費者にとって有難いこととして、受け取られているのだが、国内の牧畜業者にとっては必ずしもそうではない。

市場の現実の価格が政府の決めた保償価格より低い場合その差額を国家予算によって保償し埋めなくてはならないと云う事態も発生するからである。

輸入食肉の価格が適当に維持されて、それによって国内の保償価格の操作上、安定した価格が維持されることは明らかにイギリス当局にとって満足なものである。

そのように平衡を保持することが出来る価格がどんなものであるか吾々には分らない。しかしいずれにせよ、それがアルゼンチン側にとって、ひどく低いものとはならないであらうと云う推測は許されることである。

1963年に英連邦の食肉価格が過大な輸入量によって下落したのだが、この問題を討議する為、渡英したアルゼンチン使節団に対して、仮協定が提出された。それはアルゼンチンからの最大の年間輸入量を14万トンに規制すると云った性質のものであった為、アルゼンチン側はそれを受け入れなかったものである。

この件に関連することであるが1967年、ジュネーブにおけるガット交渉で食肉の国際協定の基本案を討議した際、イギリス代表は英国市場で採用している特殊な輸入に対する原則を変更するつもりがないことを繰返して述べている。

このことから察すると、イギリス当局には今迄ずっと、明らかにされなかった二つの問題に光をあて、討議しようとする素地が出来上っているのだらう。

その二つの点とは、大体の年間輸入量と輸出入両国を満足させる平均価格とである。この二点は輸入国イギリスにとって関心事である以上に輸出国であるアルゼンチン、ウルガイ、ブラジル、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド、その他のいくつかの国々にとって、大小の差こそあれ大いに関心を引く問題である。

これら諸国の利害を調整することが、交渉の席に於て達成されるならば、それ自身貿易促進上の利益となるだけでなく、更にE E Oとの協定の将来に有力な前例が作られることにもなる。

それは又食肉に関する国際協定の為の一步前進を意味することにもなる。

INFORMACION MENSUAL

MAYO DE 1968

CAP ARGENTINA

第 4 節 E E C, 外

E E C の輸入食肉に対する割増価格実施のためのメカニズム

欧州共同市場はそれ自体輸入関税に関する同盟である。加盟諸国は相互間の通商制限の軽減又は撤廃を議決すると同時に第三国からの輸入に対して、共通の関税障壁を設けることを議決している。われわれの食肉産業の場合、この関税障壁は以下に述べるようなメカニズムによってその効果を現わすように仕組みられている。

指導価格 (PRECIO DE ORIENTACION)

指導価格とは国内の食肉需要がその国の食肉生産業にとって、魅力的であり、刺戟を与えることが出来るようにという配慮のもとに E E C 諸国の政府によって設定された家畜の卸価格である。

この指導価格は加盟諸国が変更を適切であると判断したとき、臨機に変更されるものである。表(I)に示される様式に従って毎週国内市場(又は現実)価格と輸入価格とに分けて示される。

表(I) 西独 9 月第 3 週 (11~15日)

指導価格の 105%	13	↑	キロ当り 06798ドル(付)
			トン当り 1289ドル
指導価格	12	↑	キロ当り 06472ドル(付)
			トン当り 1229ドル
市場価格	11	↑	キロ当り 06051ドル(付)
			トン当り 1149ドル
	10	↑	
			トン当り 37989ドル
輸入価格	9	↓	
			トン当り 84911ドル
	8		
	7		
	6		
	5		

輸入価格を設定するためには、イギリス、アイルランド及びデンマークの生肉の現実市場価格のそれぞれ30%、20%及び50%の数字をとり、その平均値を算出する。

御承知のようにこれら三国は何れもEEC加盟国ではない。その為これらの輸入価格を第三国市場価格と呼ぶ。

国内市場(又は現実)価格は、加盟国の主要市場を基本としており、加盟諸国のその週の国内価格を平均して算出したものである。

指導価格は輸入価格と比較されこの二つの間の差を賦課税として実施する。(PRELIEVO)

表(I)の場合トン当たり379.89ドルである。

これはEECの共通関税として控除される税である。この賦課税は今後更に詳細に述べてゆくような各種の方式に従って実施される。

これらの方式は実施に当たり常に国内価格と指導価格を参考にするものである。

若し国内市場価格が指導価格の105%を越える場合には、上述の賦課税は実施されない。

又国内市場価格が指導価格の100%と105%との間にある場合には賦課税の50%が実施される。

表(II)は西独市場9月第3週(11日~15日)の現実のケースの一つが例示されている。

表(II) 西独 9月第3週(11~15日)

指導価格	13	キロ当り 0.6472ドル(生)
		トン当り 1229ドル
市場価格	12	キロ当り 0.6051ドル(生)
		トン当り 1149ドル
輸入業者利益4%	11	トン当り 1034.25ドル
賦課税価格	10	トン当り 995.44ドル
アルゼンチン市場価格(冷蔵)	9	トン当り 976.65ドル
	8	トン当り 379.89ドル
受取り, 衛生検査, 取扱運搬	7	トン当り 615.55ドル
運賃, 保険	6	トン当り 594.75ドル
アルゼンチンFOB価格	5	トン当り 500ドル

表IIに示されるように、アルゼンチンFOB価格トン当り500ドルから始まっている。運賃、保険、受取り、関税、衛生検査、荷役、運搬の費用を合計すると、トン当り615.55ドルになる。

この週の国内市場価格は指導価格より低かった為賦課税は100% (379.89ドル)適用されることになる。

従ってアルゼンチンから輸出した食肉のトン当り価格は、995.44ドルに上昇している。

この価格は更に4%の新しい増加(輸入業者利益)が発生する。

結局トン当り1,034.25ドルということになる。

所が冷蔵肉というハンディキャップによつて普通、鮮肉の市場価格から15%のディスカウントが常識である。即ち若し鮮肉の市場相場がトン当り1,149ドルであれば冷蔵肉の競争価格は975.65ドルである。

所がこの表Ⅱに見られるように賦課税100%の適用によってその線を越えて1,034.25ドルになってしまう。

このような方法で関税障壁を設けることによって、EEO諸国は何時如何なるときでも、その積りになれば第三国からの食肉輸入を防ぐことが出来るようになっていく。

第三国市場の輸入相場として、イギリス、アイルランド、デンマークの三国を指標国として指定しているが、現在、他の如何なる第三国でも、それが更に低い相場を示す場合はその価格を指標として採用しようと云う新しいシステムを考慮中である。

この方式を採用すると、指導価格と輸入価格との間の差は一段と大きくなり、それによって更に関税障壁となる賦課税も高くなることにならう。

EEOの項は下記資料による

INFORMACION MENSUAL

NOVIEMBRE DE 1967

CAP ARGENTINE

加工肉の消費

ここにFAO「世界食肉経済」による二つの資料を紹介して加工肉消費を食肉消費の中で比較してみよう。

1962年の統計で少し古い傾向を知る上には充分である。

ドイツはフランクフルトでも知られるようにソーセージが名物と言われる程の国である。

ソーセージを中心とした加工肉の消費量19.1キロは1962年の全食肉消費量36.2キロの53%である。

イギリスの場合は同じく1962年加工肉の消費量は23.0キロで全食

肉消費量 5.5.7 キロの 4.2% に相当する。

西ドイツ中位所得層4人家計の食肉購入量

単位：一人当りキロ

商 品	1950	55	56	57	58	59	60	61	62
牛 肉	3.7	3.8	3.9	3.8	4.0	3.8	3.9	4.0	4.2
子 牛 肉	0.5	0.4	0.4	0.4	0.3	0.3	0.3	0.3	0.4
豚 肉	3.3	4.1	4.2	4.2	4.6	4.1	4.4	4.3	4.5
家 禽 肉	0.4	0.7	0.8	1.2	1.2	1.9	2.0	2.6	2.8
く ず 肉	0.3	0.8	0.9	0.9	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0
加工しない肉計	8.2	9.8	10.2	10.5	11.0	11.0	11.6	12.2	12.9
ミンチ肉	1.1	1.8	1.9	2.0	1.9	1.9	2.1	2.1	2.2
ハム	0.2	0.7	0.8	0.8	0.9	0.9	1.0	1.0	1.0
ソーセージ	7.2	12.2	13.2	13.5	13.2	13.3	13.6	13.4	13.6
カン詰肉	0.4	0.4	0.4	0.8	0.5	0.6	0.6	0.7	0.9
ベーコン(あぶり身)	1.7	1.9	1.9	1.8	1.7	1.5	1.6	1.5	1.4
加工肉計	10.6	17.0	18.2	18.9	18.1	18.2	18.9	18.7	19.1
その他、生又は加工	3.0	3.6	4.1	4.2	4.0	4.2	4.2	4.1	4.2
購入量合計	21.8	30.4	32.5	33.6	33.1	33.4	34.7	35.0	36.2

FAO 「世界食肉経済」による。

大ブリテンの家計食肉消費量

単位：一人当りキロ

商 品	1950	55	56	57	58	59	60	61	62
牛肉と子牛肉	11.9	13.8	14.7	15.5	14.1	12.6	12.9	13.4	13.3
羊肉と子羊肉	8.0	9.6	10.6	9.3	8.9	10.3	9.8	9.9	9.9
豚 肉	0.4	3.4	2.8	2.9	3.1	3.0	3.0	2.9	3.4
家 禽 肉	0.5	0.7	0.8	1.2	1.4	2.0	2.5	3.4	3.4
ウサギ肉, 鴉鳥獣肉ほか	1.7	0.1	0.1	0.2	0.2	0.2	0.1	0.2	0.2
く ず 肉	1.8	2.3	2.4	2.2	2.2	2.1	2.1	2.1	2.2
加工しない肉合計	24.3	29.9	31.4	31.3	29.9	30.2	30.4	31.9	32.4
ベーコン及びハム (熱を加えないもの)	6.7	7.9	7.5	7.5	7.6	7.6	7.8	7.7	8.2
コーンミート	0.8	1.1	1.2	1.2	1.3	1.1	1.1	1.0	1.0
ベーコン及びハム (熱を加えたもの) カン詰を含む	-	1.1	1.1	1.2	1.2	1.2	1.2	1.3	1.3
チキン(熱を加えたもの)	2.6	-	-	-	-	-	0.1	0.1	0.1

その他 熱を加えた 食肉 (カン詰以外)	-	0.6	0.6	0.6	0.6	0.6	1.1	1.1	1.1
その他カン詰肉	-	1.8	1.9	2.0	2.2	2.2	1.9	1.9	2.1
ソーセージ(熱を加えな いもの) 豚 肉		3.3	2.9	3.1	3.0	2.9	3.2	3.1	3.4
牛 肉	5.9	1.8	2.2	2.2	2.1	2.3	2.2	2.2	2.2
その他肉製品	2.8	2.5	2.6	2.6	3.1	3.1	3.3	3.5	3.6
加工肉計	18.8	20.1	20.0	20.4	21.1	21.0	21.9	21.9	23.0
家計食肉消費計 (上記とは別途に 購入した量を含む)	44.0	50.7	52.1	52.2	51.8	51.9	52.9	54.2	55.7

FAO 「世界食肉経済」による。

ソ連の畜産

ソ連の食肉生産には許されている私企業組織による農場が大きな役割を演じている。

1967年にはこれら私企業農場による牧畜生産は全体の20~30%を占めている。

ソ連牧畜では最近肉牛の減少が著しい反面、羊や山羊の減少程度は最も少ない。

豚は1968年1月現在12%減と伝えられて5億800万頭と数えられた。

全国的に広域に亘った減少だがウクライナ地方の減少がもっとも多い。

これは1966年と1967年の交配減少による結果と伝えられている。

ソ連の国営又は集団農場における豚一頭当り年間平均出生子豚数として次表が発表されていることからみても減産傾向がうなづかれる。

1961	15.1頭
1962	13.8%
1963	11.2%
1964	13.1%
1965	15.7%
1966	10.8%
1967	10.4%

この減少傾向はまた、口蹄疫によるものでもあらう。1965年後期からこの疫病が広範囲に伝染したものである。

その結果として1967年だけで国営又は集団農場における繁殖用の雌の数が29万9,000頭も減少した。この1967年の豚の減少は過去10年間に二回目のものである。

50年代の半ばに始った豚の増殖は穀類大減産の1963年まで続いた。

この年の飼料不足の為に大量屠殺が行われたものである。

その為1年の間に7,000万頭から4,100万頭迄減少した。

その後若干回復して1966年には5,960万頭迄増加した。

ノ連家畜数 1月現在

単位：100万頭

	畜 牛	乳 牛	豚	羊, 山羊
1958	66.8	31.4	44.3	130.1
59	70.8	33.3	48.7	139.2
60	74.2	33.9	53.4	144.0
61	75.8	34.8	58.7	140.3
62	82.1	36.3	66.7	144.5
63	87.0	38.0	70.0	146.4
64	85.4	38.3	40.9	139.5
65	87.2	38.8	52.8	130.7
66	93.4	40.1	59.6	135.3
67	97.1	41.2	58.0	141.0
68	97.1	41.2	50.8	143.9

USDA "FOREIGN AGRICULTURE" JUNE 19, 1968

第5節 食肉マーケティング

流通：

国内市場で自由な流通が営まれる環境では、飼育者、屠殺加工企業そして小売前線の三段階が食肉マーケティングの主役となる。それは自由主義経済のどの国にも共通する態様であるが、ここに米国を例として食肉の国内流通を説明しよう。

1. 流通機構

食肉流通は家畜を飼育するものと、パッカー、そして小売業者の三段階を中心として推進される。

1. 家畜を飼育するものは、一般農家、專業ランチャー（エスタンシャ）及び飼育專業フィーダーから成り立つ。
2. パッカーは生きた家畜を屠殺し小売出来る状態に仕上げる工場組織で、資本が集中する段階である。ここでは加工肉の製造も行う。
3. 小売業、ブッチャー、レストラン、ホテル等直接消費大衆と接して食肉を販売し、多数業者によって構成される。

この三段階の流通経路の中で卸業者、委託商人、特殊加工業者、配給支部等が中間業者として夫々の機能を果たす。

中間業者の存在価値は、大量に仕入れ小量に分配するか、仕入れた食肉に附加価値を与えて分配する機能にある。この業界にもこのような中間業者が多種多数に存在して流通をスムーズに推進するのである。

飼育された家畜を売買するのは売方と買方を代表する委託業者組織があることはアルゼンチンに於いてもシカゴに於いても同様である。南米ではフリゴリフイコ、アメリカではパッカーと呼ばれる企業体が購入した家畜を屠殺し処理して貨車、トラック単位で販売する。

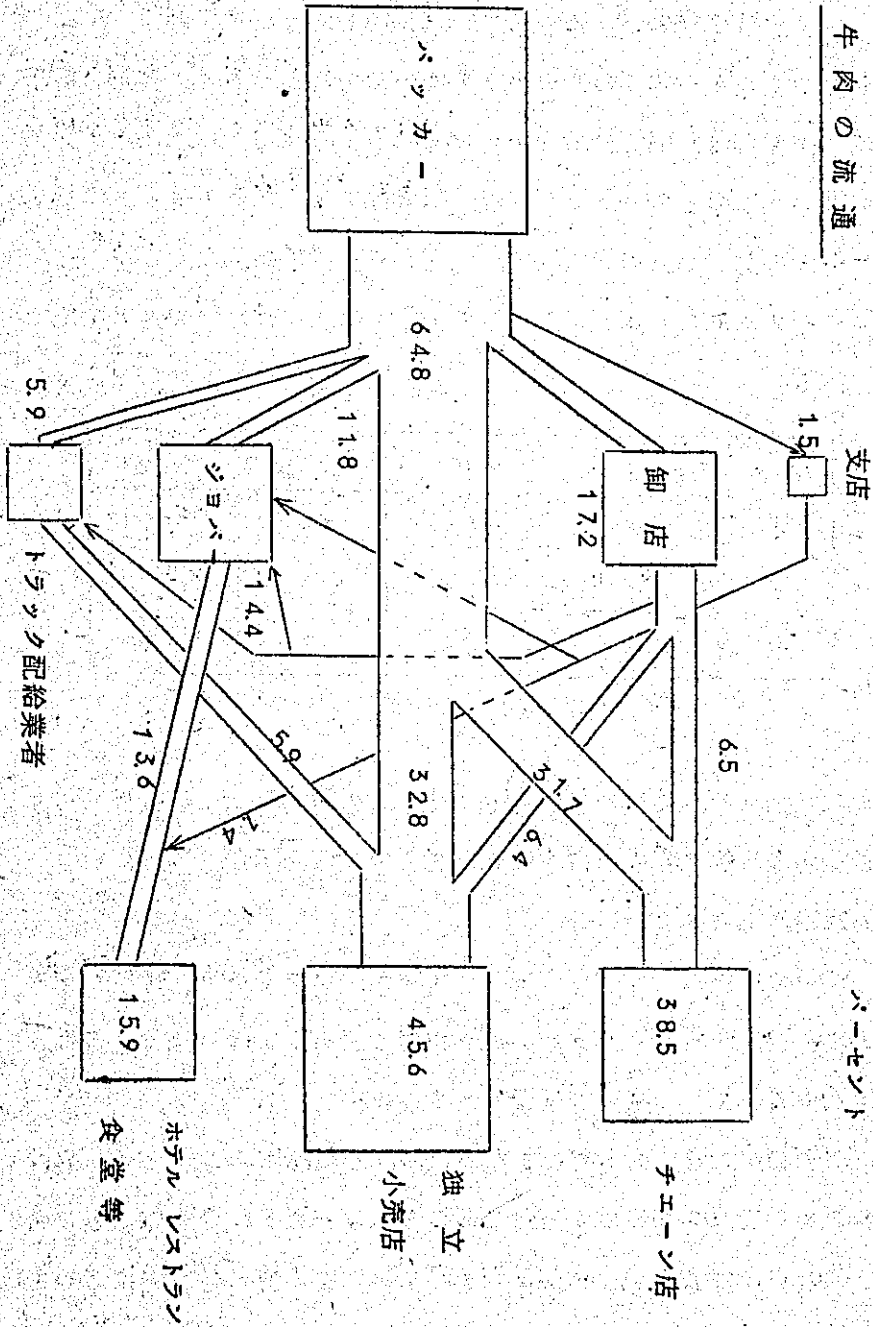
小売業者側で貨車、トラック単位の取引が出来るのはスーパーチェーン店位であつて、普通のブッチャー、レストランは中間業者から仕入れをする。

中間業者のなかにはブッカーの支店が自ら経営を行うものがあるほか、卸分配業と云う独立業者の機能がある。

その他、ホテル サブライハウスと呼ばれるジョバーが居て、中間業務を行う。名前の通りホテル、レストラン及び一般ブッチャー相手の分配業務である。

ロスアンゼルス市近辺の牛肉流通に関する一例を図示しよう。

牛肉の流通



ロ. 流通マージン

流通を推進する原動力となるのは中間利潤即ちマージンである。

アメリカ(1964年)の食肉流通では飼育者からパッカーを経て卸中間業者の売値の間に牛肉の場合一ポンド当り10セントが流通マージンとして普通の取引となっている。羊、豚肉は13セントである。この上に小売業者の利益が上乘せされて小売されるわけである。

小売マージンは牛肉18セント、羊肉17セント、豚肉12セント位となっている。

ポンド当り	牛肉	羊肉	豚肉
小売価格	71	70	53
卸売価格	53	53	41
飼育者手取	43	40	28

1964年 単位：セント

この価格は比較のため小売される肉の状態を正味重量として計算したものであるから、飼育者の売渡す生きた家畜の歩留りによって逆算しないと生体価格が出てこない。

卸マージンの中にはパッカーと中間業者マージンがあるが、特にパッカーがその主役である。ミートパッカーが流通で主役を演じるようになり資本が集中されて、プロセスは合理化される。

それにより更に大量販売が可能となるため、この段階でのマージン率は年々少くなる傾向にあるのも当然であろう。パッカーは企業体として大型化して行くのであるが、パッキングプラントは小型多数主義によって分散して行く。シカゴのように昔は市場近くに集約された大型プラントが経営されたのであるが、今では立地を生産地と地方の小市場に求めて

分散して仕舞っている。

ハ. 食肉輸入

1964年アメリカの食肉輸出は約10万トン、輸入は65万トンである。その76%が子牛肉であった。

1963年の輸入は牛肉、子牛肉合計75万トンでアメリカの牛肉、子牛肉生産の9パーセントを占めた。

このような状勢に対処するため1964年急いで食肉輸入制限が立法化されたものである。

その後輸入量は減少し、制限法は発動されていないと云うことである。

価格変動

食肉の価格変動は一般に次の四つの型に分類される。

1. 長期変動
2. 短期変動
3. 季節変動
4. 循環変動

ここでは主として循環変動の特性をアメリカに例をとって述べるのであるが、その前に三つの変動の型にふれておこう。

1. 長期変動

長期変動上の特性は、牛、豚、羊の種類別に特別差異はなく、大体同一傾向を辿っている。

20世紀に入ってから食肉価格の長期変動に、三つの大きな山があつ

た。

二回の世界大戦による急騰と1930年代の大不況による下落である。第二次大戦後かなり長期にわたり、良い価格を維持して来たのであるが、1952年頃から急速な低下傾向を示した。以来長期変動としては特別な傾向はなく不規則な上下変動を続けているわけである。

2. 短期変動

短期と云う意味には、毎日毎日の変動から毎週の変動といったものが含まれる。

冷蔵、冷凍技術の進歩と小売段階及び家庭における冷蔵、冷凍の普及によって昔の様な短期変動はなくなっている。

冷蔵、冷凍の普及——ゴールドチェーンの発達によって従来変動の要因となったものが吸収され影響を与えないようになった。

3. 季節変動

食肉価格の季節変動は結局、家畜を市場に出す量が季節的に異なるからに外ならない。

日本のように冬になれば「スキヤキ」に多く消費されるからと云って、肉の消費面からの変動要因は殆どとるにたらない。殆ど供給量の変動要因によるものである。

当然のことであるが多量に市場に供給される季節には価格が安く、供給が少くなる季節には価格も高くなる。供給量の季節的変動は家畜の種類によって異なる。豚の価格は真夏に最も高く秋から初冬にかけて最も安くなる。その後晩冬に一時高くなるがその後若干下り、すぐさま真夏の高価格に向けて高くなる。この一年間の価格の高低は全く豚の供給量に反比例して変動するものである。

牛の場合は豚程顕著な季節変動はない。

牧草地中心で飼育された牛は牧草飼育期間の終る晩夏，秋期に最も多く市場に出される。

これに反してフィーダーによつて飼育された牛は春から夏に多く供給される。

子羊の季節的な価格変動は牛より大きい。

春に高く，晩夏，秋期に安い特長がある。

元来季節的な変動は何年間もの間の平均値で示されるものであつて，一年だけを取り上げて当てはめることは出来ない。ただ年間の価格変動があるのだと云う認識を持つ必要がある。

4. 循環変動

市場価格が高いと誰もが沢山の家畜を飼育しようと思つて心掛けるようになる。

そのような人々の家畜が成育する頃になると，それらが一度に市場に供給されることになる。その結果価格は下落する。

下落すれば今度は皆に飼育を減らそうと云う心理が働き結局市場への供給量が全体として減少する。

従つて価格高をもたらず。此の様にして，食肉には可成り顕著な循環変動が見られるものである。

たゞし生産牧畜業者の市場技術が進歩するにつれて規則正しい循環変動に若干の歪が発生することも留意しなければならない。

此の様な循環変動の週期と振幅は家畜の種類によつてそれぞれ異なる。ビッグサイクルと称して豚の価格の循環変動は顕著であり有名である。

循環変動は結局，供給側だけの要因による価格変動と云うことになる。

飼育技術の発達，家畜の改良によつて循環の週期が短くなる傾向がある。

又飼料の低廉と育成コストの合理化によつて変動の振幅を小さくする努力もなされている。

その他干パツによる牧草地の被害なども規模が大きければ循環変動に大きな影響を与える。

豚

循環変動で週期に変動するのは家畜の成育期間である。豚の場合は高い価格から次の高い価格に変動する週期は3年から5年であると言われる。
(グラフ参照)

牛

豚と比べると牛の成育にはもっと長い期間が必要とされる。従つて牛の循環変動の週期は豚の場合より長い。昔は1.6年或はそれ以上とも言われた時代がある位である。所が牛の早期成熟の技術と若牛処理の習慣が滲透するにつれてこの期間も9年から11年程度に短縮されて来た。最近はもっと短縮される傾向にある。(グラフ参照)

価格はこのグラフに示される牛の供給量の変化を基調としてその時の経済条件による影響を受けた為に歪を生ずるのである。(価格のサイクルに関するグラフ参照)

羊

牛より短いことは確かであるがそれでも普通7年から10年と言われて可成り長期間の循環週期をもつものである。

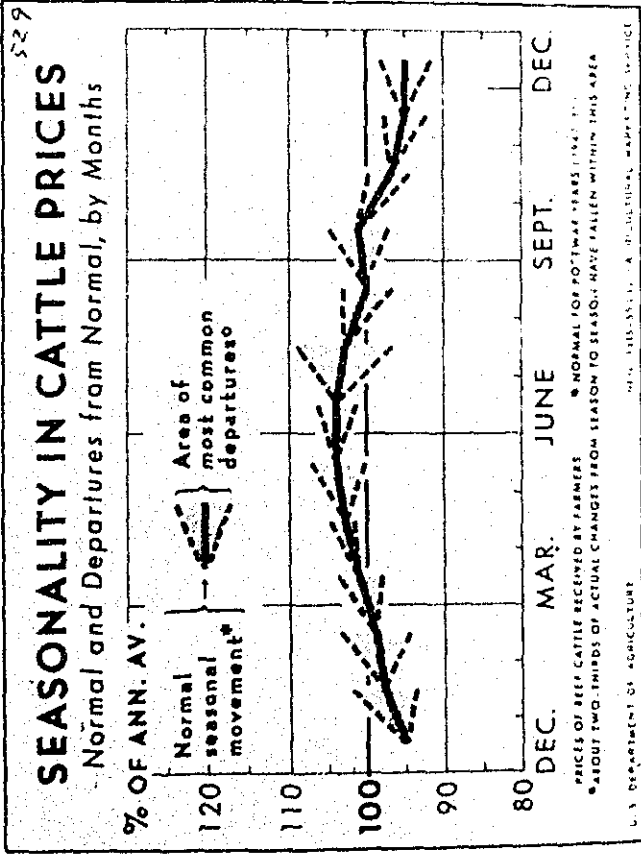


Fig. 18-5. The most regular and reliable changes in overall cattle prices are increases from February to April, and decreases in July and August and from September to November. (USDA photograph.)

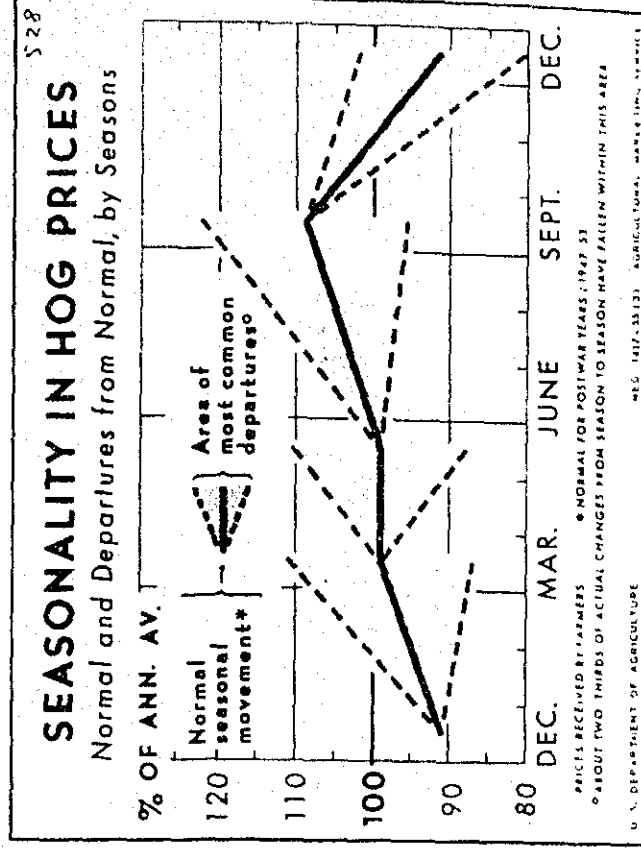


Fig. 18-4. Winter and summer increase in hog prices and a fall decline can be expected in most years. Between March and May, prices sometimes go up, sometimes down. (USDA photograph.)

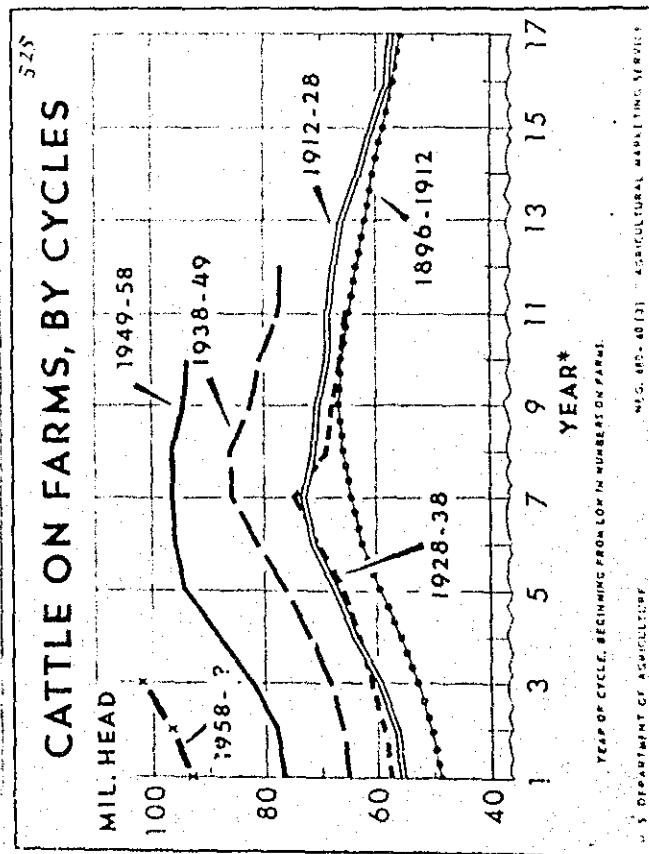


Fig. 18-2. Cattle cycles have been reduced in length from 16 years to less than 12 years as a result of the earlier maturity of modern breeds and the demand for younger cattle for slaughter. (USDA photograph.)

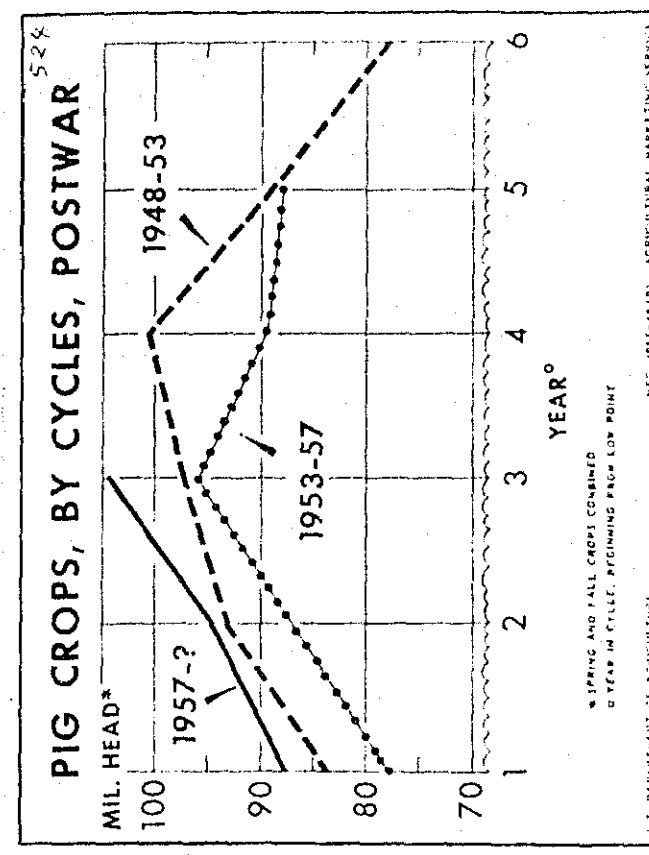


Fig. 18-1. Hog production has shown a tendency to increase for two or three years and then to decrease for two years. The current cycle turned downward in late 1959. (USDA photograph.)

需 給 構 成

まえがき

一般に製造商品の価格は製造コストと利潤を基礎として構成されるものである。

所が食肉の場合には必ずしもそのようには行かない。

それは市場の需要或いは食品としての価値観念によって形成される相場とそれに対する供給の度合いに応じて決められるものである。

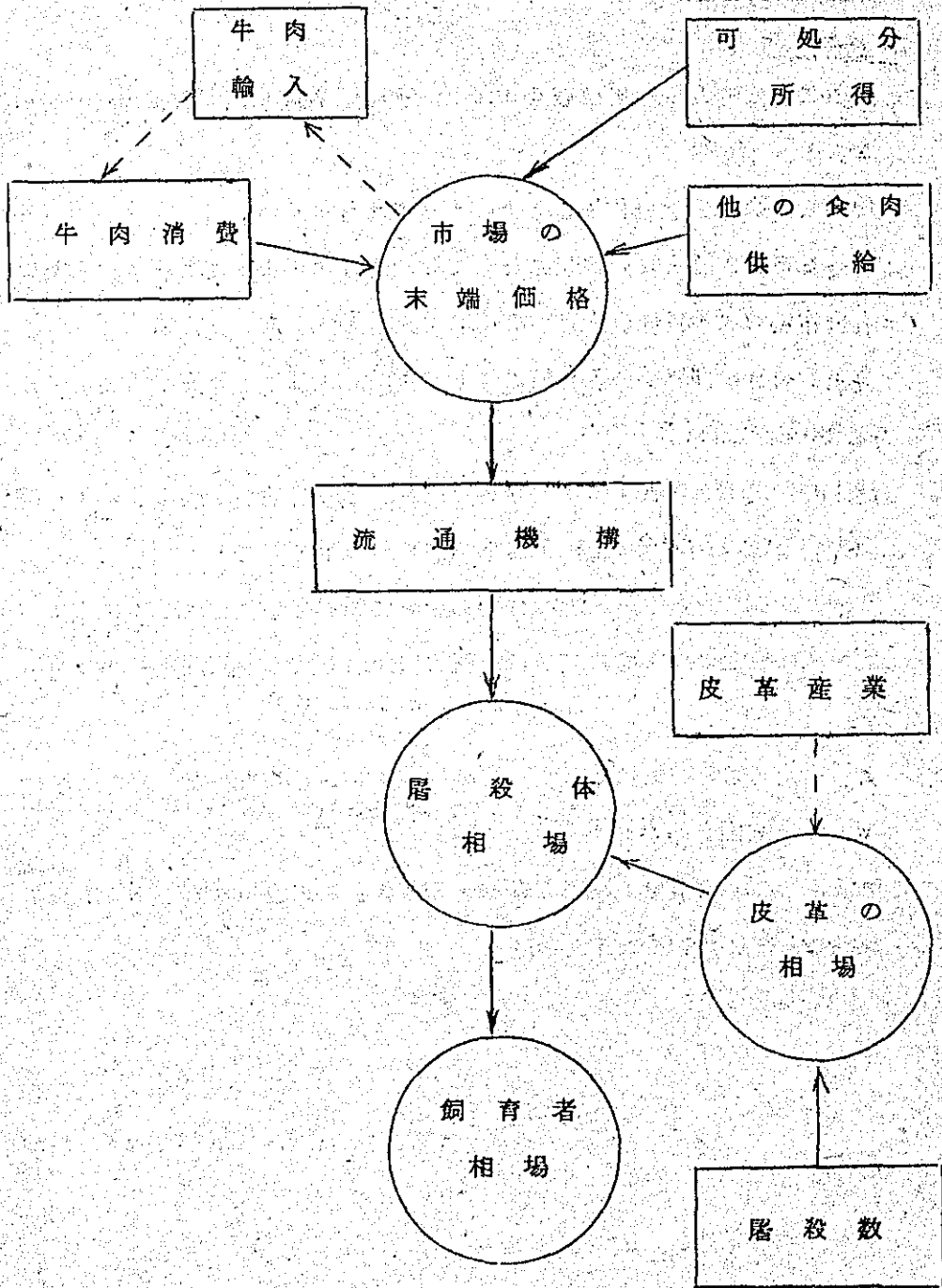
食肉の場合には買手の入札値に応じて供給を加減することが出来る点に特徴がある。

基本的に買手を代表する市場相場と売手である生産者を代表する供給相場相場とのバランスの上に価格が構成されるものである。

それぞれの背景となる要因が作用し合って相場を創り出すのであるが、それらの要因自体も需要と供給の双方に作用し合う因果関係をもっている。

それらの要因を図表によって結びつけたU S D Aの資料を紹介しておこう。

南米各国の地域市場で採用されるマーケティング上の基本となるものであることを附言しておきたい。



牛肉の需要構成

U S D A による図表をもとにして牛肉に関する需給構成を説明してみよう。

牛肉市場の末端価格を形成する基本は流通機構を通して供給される牛肉の量によるのであるがそのような需給に影響を与える市場側の要因は次の通りである。

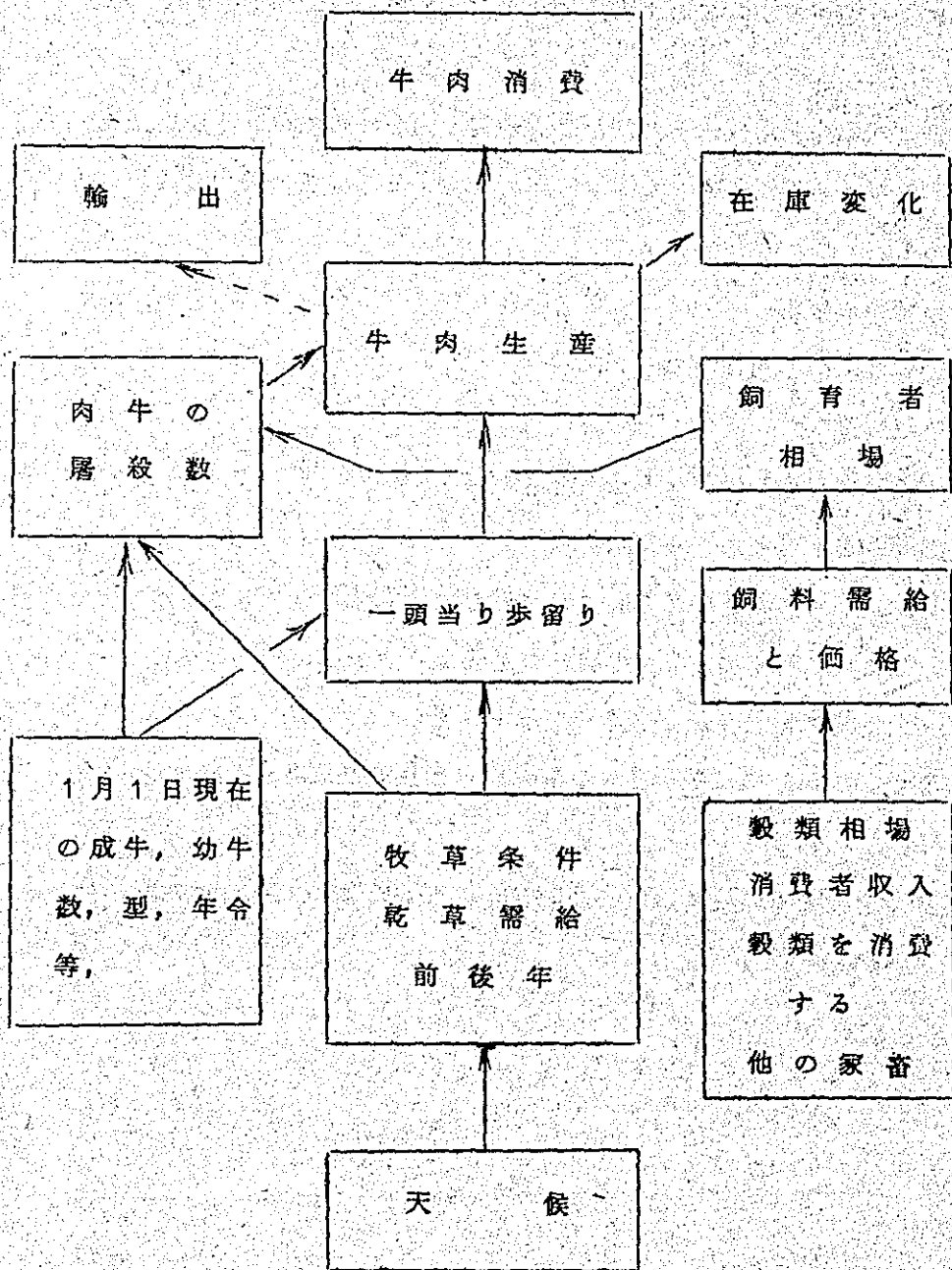
1. 可処分所得の変化……………消費者の収入
2. 競合食肉の供給と相場とのバランス
3. 牛肉の消費量
4. 数%の範囲で市場に流入する輸入肉の影響

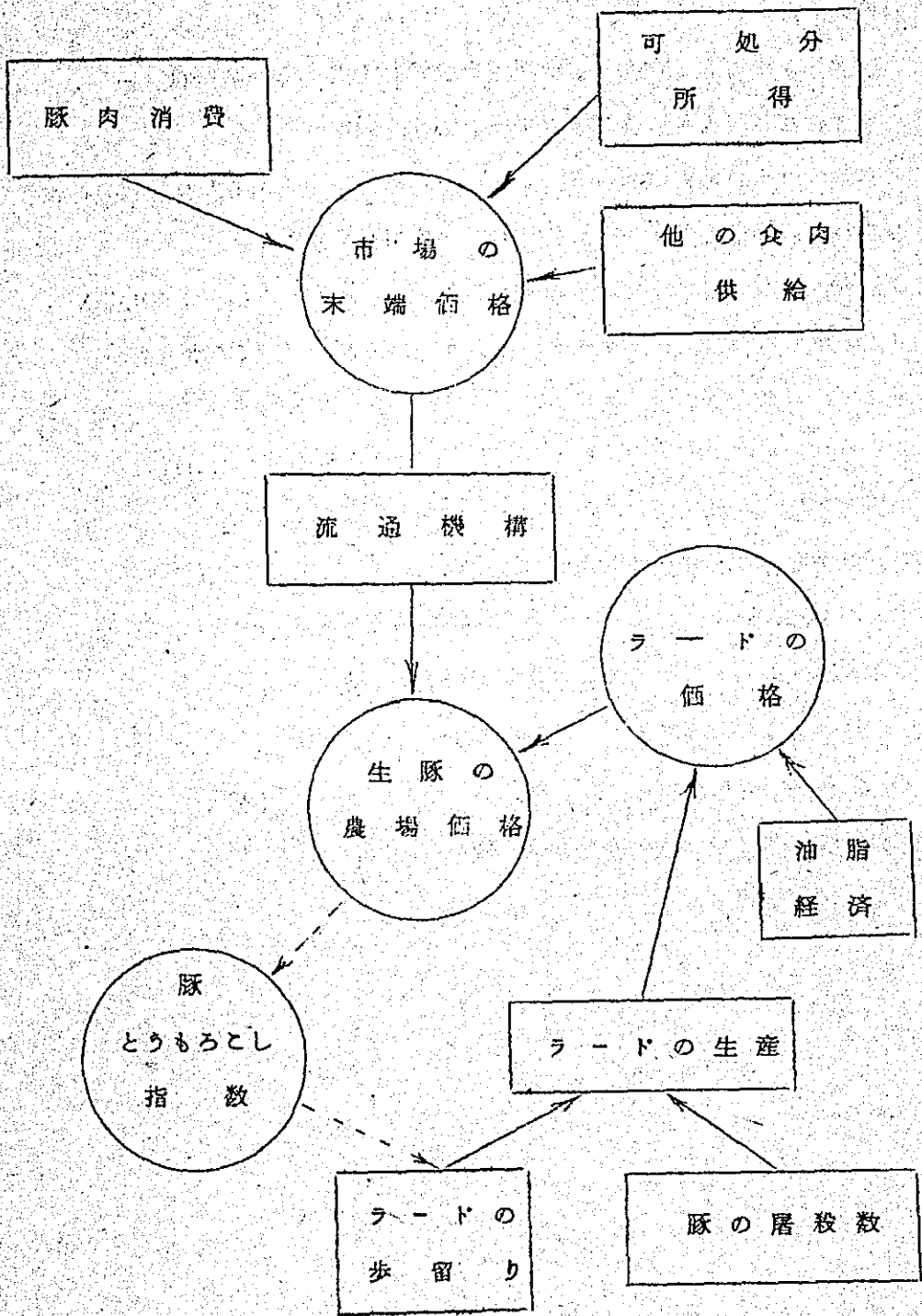
以上の四大要因をあげることが出来る。

屠場の相場は主として流通機構を通ってくる市場価格によって影響される。しかしその時の副産物としての皮革や血液を換金することによって得られる収入の度合もこの価格形式に影響を与える。

屠殺のときの相場が結局肉牛飼育者の農場相場としての価格を形成するものである。

また牛肉消費を支える供給側の生産に影響を与える要因は次図に示すように多数ある。





豚肉の需給形成

U.S.D.Aの図表をもとにして豚肉の需給形成を説明してみよう。

牛肉の屠殺では皮革の相場が影響したのであるが豚の場合はラードの生産が副産物としての価値を高めている。

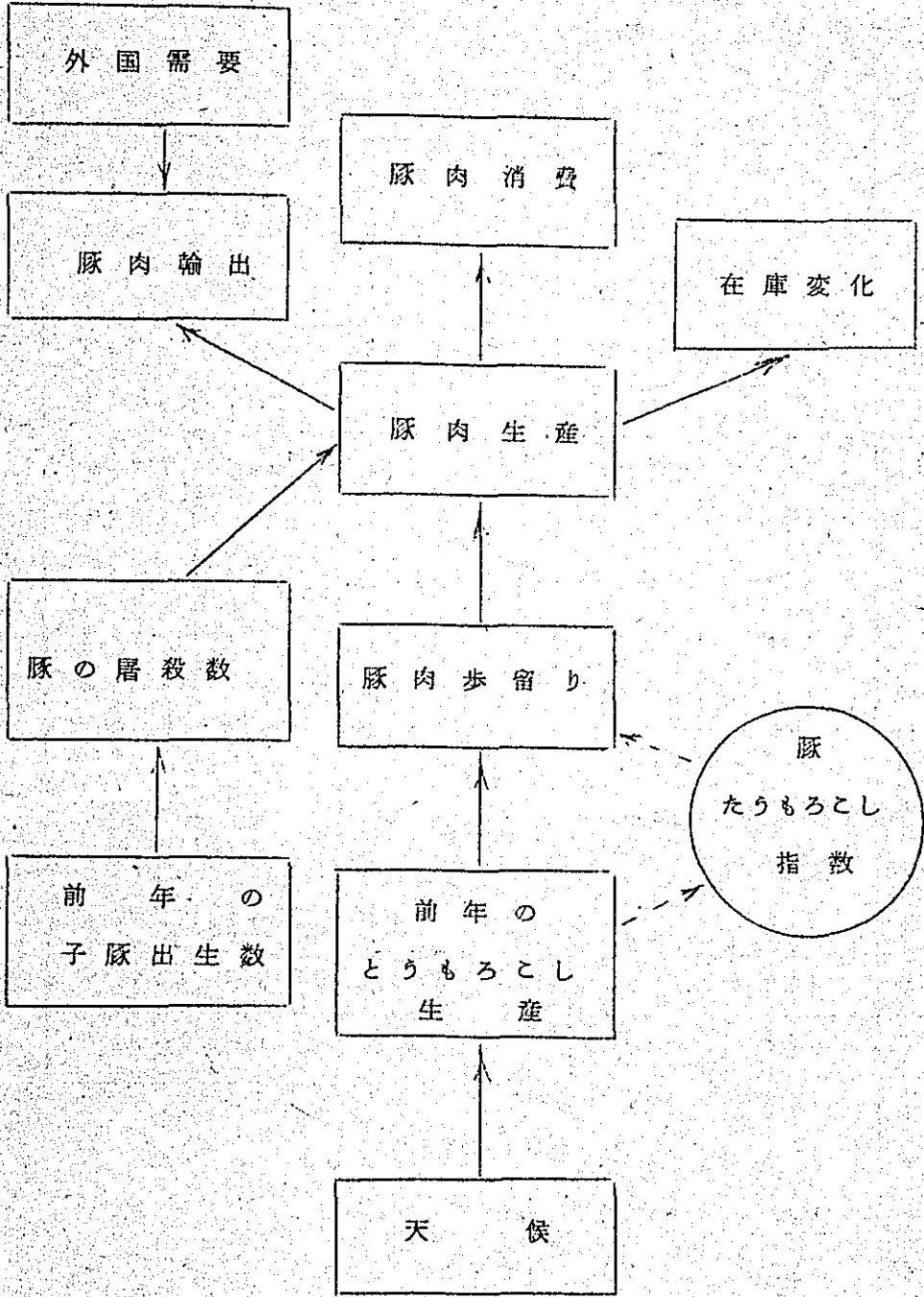
豚ととうもろこしの価格比(HOG-CORN RATIO)ここに豚に特有な価格形成要因が出て来たので説明しておこう。

生豚100ポンドの価格で何ブッシェルのとうもろこし(この場合No.3 YELLOW CORN)が購入出来るかと云う数字で表わされるものである。

豚の価格の方が割高であれば飼料であるとうもろこしが沢山買える。即ち豚の飼育コストがそれだけ安いと云うことである。

アメリカで1896年から1914年にかけて標準指数は100ポンドの生豚に1.4ブッシェルと云うことになっている。(2.2ポンド=1キログラム 1ブッシェル=36リットル=約2斗)

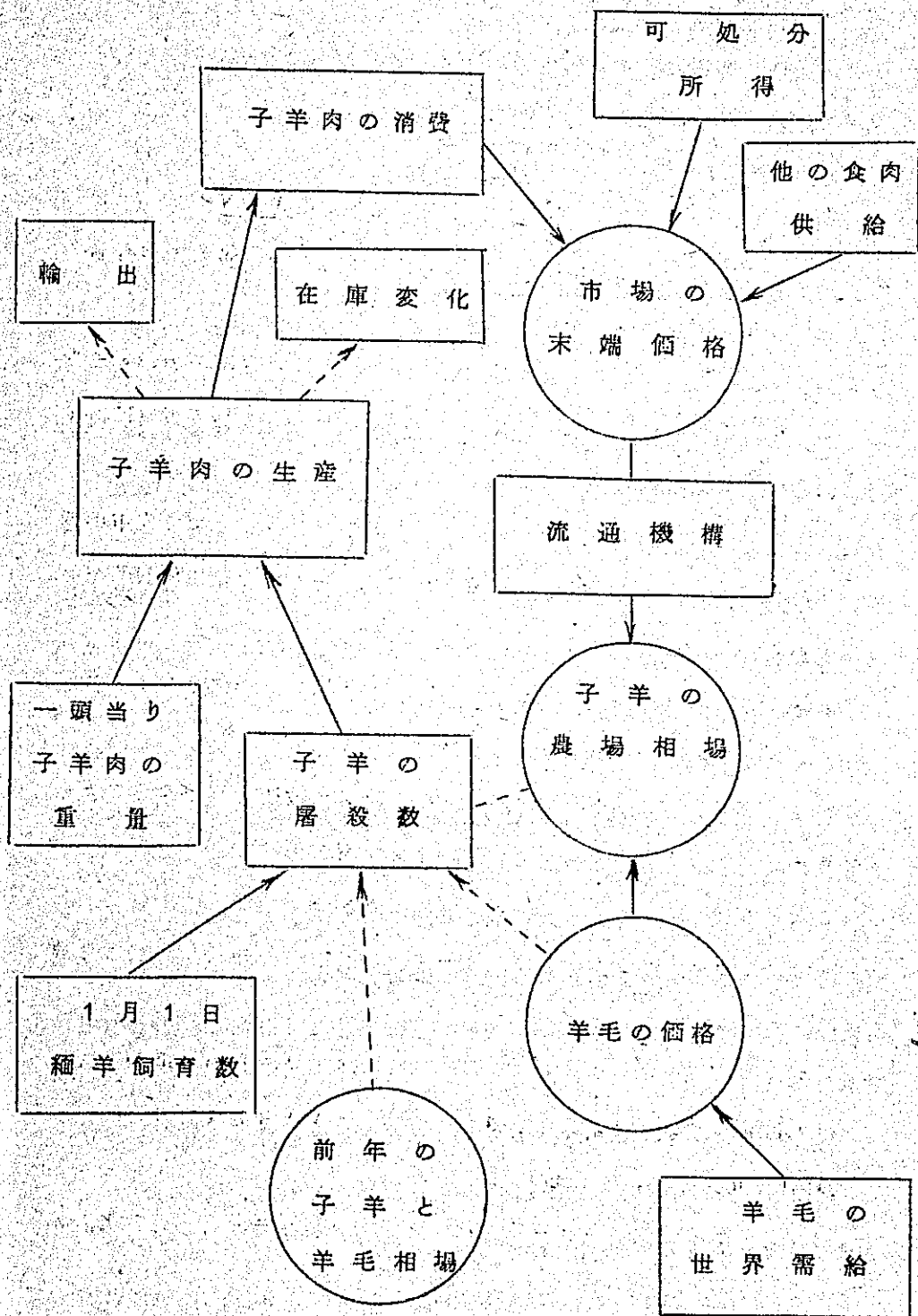
その年の9月から12月にかけてのこの指数が1.2.8よりよければ必ず翌春の子豚の出産率が増加する現象が極めて規則正しく起っている。



年	9-12月 豚-とうもろこし 価格比 全米	翌春 子豚の出産 前年比 %
1958	17.9	1.2
38	17.2	27.9
42	17.2	25.7
48	17.1	12.6
57	16.9	-6.4
26	16.6	7.8
53	15.8	8.9
41	15.5	24.8
49	15.4	4.1
37	15.3	10.0
46	14.8	5.8
35	14.7	27.2
32	14.2	3.5
50	13.5	3.3
25	13.5	8.6
54	12.8	9.0
45	12.7	-2.7
43	12.4	-24.1
44	12.3	-10.2
56	12.3	-9.0

1959	12.2	8.9
39	12.0	-5.1
31	12.0	-1.8
51	11.5	-12.4
55	11.4	-0.1
52	11.3	-15.2
47	11.2	-8.4
27	11.2	-4.6
28	11.2	-4.8
30	11.2	8.4
29	10.3	-6.5
40	10.0	-5.9
36	9.4	-11.2
33	8.6	-25.2
24	8.2	-15.0
34	6.8	-19.9

U S D A



子羊肉の需給形成

牛肉、豚肉と同様にU S D Aは次のような需給構成を図表化している。

羊毛の国際相場が出ている事が注目される。

シカゴストックヤード放送担当者 LARRY OAIN

シカゴといえば大繁栄の1920年代のギャングと共に屠殺場が有名である。

シカゴの市場でせりに出された何千頭の牛がその日の内に隣接のミートパッカーの工場で屠殺され、バラバラにされ翌朝は肉として市場に出て行く、と言ひ話を聞かされた。

現在では大部分の新しいミートパッカーの工場がシカゴのような市場近くの立地から牧畜産地の中心に新設された為、シカゴのこの伝説的なストックヤードの繁栄は過去のものとなっている。

しかし今でも或程度の運営が継続されこの相場が全米に散在する各地の市場相場に対する指標的な役割を果たしている。

この有名なシカゴストックヤードで相場のラジオ放送を担当するアナウンサー「ラリー」の名は地方の牧畜業者間で有名である。

此の人との会話を通して得たいろいろな情報を羅列してみよう。

正式にはシカゴユニオンストックヤードと称するこの市場には三つの機能がある。

1. 施設を所有して家畜の為のホテルのような業務を行う。取引が成立すれば牛一頭につき\$1.50, 豚3.4セントをYARDAGE CHARGEとして徴集する。
2. コミッシンブローカーの事務所がある。現在35社あるがこれが

牧畜業者、フィーダー達を代表してそのために家畜の輸送から、日々の世話をする。

謝礼としてこのブローカーから牛一頭\$ 1.50を受け取る。

3. バイヤーが居て、ミートパッカーのための購入代行をする。バイヤーとコミッションブローカーの両方の業務を行うことは法律によって禁止されている。

このような機能を通じてストックヤードは牛一頭\$ 3.00 (取引価格の1%位) 豚一頭80セント (取引価格の1~2%位) を受け取る。

シカゴユニオンストックヤードは創立以来103年目になる。1920年代の大繁栄をピークとして規模は次第に縮小して来た。この10年間ミートパッカーの地方拡散移動が著しくなって来て、ストックヤードに集荷される家畜は約400マイルの半径以内に限定される。

これは列車で2日、トラックで18~19時間の距離である。ユニオンストックヤードに来るものの70%はその儘貨車に積まれて米国東部に移送される。

牛は一年半から二年位で肉になるのが普通で重量は1,000~1,200ポンド(450~550キロ)位である。

肉の歩留りは50~55%と見られる。

豚は5~7ヶ月で肉になるのが普通で重量は200ポンド(90キロ)内外である。

肉の歩留りは65~70%と見られる。

羊、子羊は重量150ポンド(68キロ)内外で歩留りは55%見当である。

ストックヤードの相場はOWT 100ポンドを単位とする。

現在牛で28ドル位になっている。

消費者価格は歩留りと流通経費が加算されるのでこの相場の3~4倍と

ならう。

0WT 28ドルのとき、末端で1ポンド当り84セントから1ドル12セント位で肉の場所によって異なる。

口蹄疫のある南米肉は生肉では輸入が禁止されている。

BOILされなければならないので、冷凍煮沸用として輸入される。

これはTVディナーやソーセージ等加工食品の原料として使用されるだけである。

牧畜業者はクロア-又はランチャーと呼ばれる。

飼育専門のフィーダーがアイオワを中心とした例のコーンベルト地帯に多数いて、とうもろこしによる飼料肥育を行っている。これらの農家は一度に15~16頭の牛を単位としてトラックに積載してストックヤードに搬入する。フィーダー専門でやるなら最小規模の農家では、主人一人の労働力を規準とする。

労働力が二人になると3倍の能力があつて、もっとコストが下ってくる。

この程度の規模であると150エーカー(100町歩)の面積で牛50頭、豚200頭を飼育する。これでグロスの収入2万5000ドルが得られる。

これより牛の購入費や飼料代を差引くと正味所得は9000ドル位となる。

とうもろこしを自家供給すると飼料代分だけ正味所得が増加する。1エーカー当りの所得は150ドル程度と見られる。

牛肉には次のようなグレードがある。

ブライム

チョイス

グッド

スタンダード

ユティリティ

コマニシャル

カンナー

カッター

牛乳をとった後の牛

北海道の種牛技術は世界的に有名です。

食肉の購買態様は変る

今日のスーパーマーケットは未だかつてなかった程多数の種類の農産品をストックして顧客の自由な選択購買を可能にしている。

その中でも最も忙しいのは食肉売場である。ここは今後も忙しさが増す一方である。

ふところ具合が更に豊かになって行くアメリカの一般の市民達がますます余計に食肉を買う傾向を強めてゆく。

特に最近は牛肉とトリ肉消費が多い傾向がある。

牛肉を使い食事は誇らしい生活のあり方として特に人々の牛肉購買意欲をそよっている。又一方「トリ肉」は安いと云う理由で沢山売れるようになつている。

1950年以來アメリカ市民の食肉消費量は著しく増して来た。その中牛肉の一人当り消費量は1950から67年の間に16%増え「トリ肉」は9.0%も増加している。

それでも牛肉の消費に関するかぎり一人当りの消費量は50年前のアメリカの市民のそれに比べて大して増えていない。例えば1909年には

人々は一年を通じて平均1.45ポンド消費したのであるが、1967年には1.55ポンドである。

1950年以来牛肉の消費は増したが豚肉の消費は若干減少した。

ところが七面鳥、ブロイラー等の「トリ肉」は急増している。「トリ肉」消費増大の理由は何といってもその「トリ」の生産コストを安くすることの出来た技術的な進歩にある。この原価安が顧客にそのままはねかえって、安い「トリ」肉を供給する結果をうんだ。

フライにされる「トリ肉」の小売価格は1950年以来30%も低下した。

一方牛肉の消費増加は、第二次大戦後の急速な需要増に応じて採用された穀物飼育牛の生産増によるものである。

豚肉消費の減少は、結局人々の嗜好傾向の変化によるものである。

今迄より更に軽い朝食、又一般食事により脂肪分の少い肉を使う傾向によるものでもある。

一人当たり年間消費量

単位：ポンド	1950	1967
トリ肉	2.5	4.6
豚肉	6.9	6.4
牛肉	6.3	10.6

ラム、及びマトンの消費は第二次大戦中6.5ポンドをピークとしてその後低下し、1950年3.5ポンドの消費に落ち現在も余り変らない。

乳製品と鶏卵を含めた家畜製品には季節的な価格変動がある。それは一年のうち、第1、第2四半期に安く、第3、四半期から消費が増え始め感謝祭とクリスマスを含めた第4、四半期に最高に達して価格が上がる。

牛肉消費は第2, 第3四半期にもっとも少い。

豚肉は夏季の生産減少による季節的変動が強い。

トリ肉の消費傾向は季節的に強く変動する。

その消費は第1四半期に最も少くその後各季毎に増加する。

また七面鳥消費増にもよるが第4四半期に最高消費を示す。

(USDA : AGRICULTURAL SITUATION, JUNE, 1968)

業務資料 五〇六一

食肉：南米と世界市場

昭和四四年 一月

海外移住事業団

東京都新宿区本塩町 8-2

電 359-8281

国際市場コンサルタント(株) 印刷監修

東京都渋谷区代々木1-22代々木マンション内

電 379-1304

